

公務員試験

面接再現ミニレポート

SAMPLE

※本冊子は、『公務員面接再現レポート』より
一部を抜粋した教材サンプルです。

AGAROOT
ACADEMY

目次

国家総合職 **1**

厚生労働省	1
国土交通省	7

地方上級、政令市、国家一般職、国家専門職等 **10**

愛知県警察職員	10
東京税関	21
東京国税局	27
東京都庁	31
大阪府庁	40
埼玉県庁	44
特別区（港区）	52

市役所、国立大学法人等 **57**

東京工業大学	57
横浜市役所	62
金沢市役所	66
堺市役所	69

国家総合職

厚生労働省

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年5月23日（火）

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：13：20～13：40

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：面接官との距離は1～2メートルくらいと一般的だった。

私：失礼いたします。

面接官A：荷物をそちら（入ってすぐのところに机があった）に置いて、どうぞおかけください。

私：はい。分かりました。

面接官A：受験番号と名前をお願いします。

私：はい。受験番号〇〇、〇〇〇〇と申します。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。よろしく願いいたします。

面接官A：ありがとうございます。今日は緊張していますか。

私：はい、かなり緊張しております。

面接官A：緊張せずリラックスして面接に挑んでいただければと思います。

私：ありがとうございます。

面接官A：まず専攻分野について聞かせていただきたいと思うのですが、民法を学ばれたということで具体的にはなにを学ばれていましたか。

私：講義では総論から家族法まで一通り学びました。その中でも不法行為に興味を持ち、大学2年の時にはゼミに参加しました。

面接官A：なぜ不法行為に興味を持ったのですか。

私：不法行為は民法709条以下に規定がありますが、条文数が少なく、詳細な規定が書かれているわけでもないものです。しかしながら不法行為に関する訴訟が日本では沢山あり、実務において不法行為の規定がどのように解

積され、運用されているか興味を持ったためです。

面接官A：なるほど。その不法行為についてのゼミではどういったことを行われていたのですか。

私：ゼミでは先生から出された事例に対して報告を行うという形式となりました。私は名誉毀損の事例を担当しました。

面接官A：現在日本でも SNS 上での誹謗中傷などが問題となっていますが、こういった名誉毀損はどう減らしていくべきだと思いますか。

私：誹謗中傷や名誉毀損に対して最初私は規制を強化することで減らしていくことを考えましたが、ゼミで学ぶ中で憲法の表現の自由との関係で規制を強化することは難しいと感じました。現在日本では誹謗中傷や名誉毀損があったとしても、SNS 上で、匿名で行われるため相手が分からず泣き寝入りすることが多くありますが、そういった泣き寝入りすることがないように事後の救済である損害賠償の制度などを強化していくことが必要だと思います。

面接官A：ありがとうございます。続いて学業職務について質問させていただきます。大学3年の時には地方自治を学ぶゼミでマイナンバー制度について学ばれたと書かれていますが、なぜマイナンバー制度を取り上げたのですか。

私：教授によってグループとテーマが振り分けられ、私はマイナンバー制度についての発表を行うグループに振り分けられたためです。

面接官A：なるほど。教授が決められたということですね。グループの中で書記をやられていたと書かれているのですが具体的にはどのようなことを行いましたか。

私：面接カードにも書かせていただいたのですが、議論が円滑に進むようにメモを取るだけでなく、争点や決定事項をわかりやすくすることや、To Do リストのようなものを作成し、次回の話し合いまでにやるべきことを可視化できるようにしました。

面接官A：それに対して周りのメンバーからの評価はありましたか。

私：具体的にどうだったかということは聞けませんでした。議論が行き詰まり皆で議事録に立ち返って争点を整理する際に、皆で話し合わなければいけない事項をスムーズに共有できたので、議論を円滑に進めるために役に立ったのではないかと思います。

面接官A：私からの質問は以上となります。

面接官B：続いて私から社会生活や学校生活について質問させていただきます

す。まず地域支援を行うボランティアサークルに所属されていたということですが、具体的にどのようなことをおこなっていたのですか。

私：〇〇県の△△市という所で地域支援のボランティアを行っていました。具体的には、災害公営住宅で暮らす高齢者の方とお話するサロン活動と呼ばれる活動であったり、子ども向けのワークショップを開催したり、地域のイベントの運営を手伝ったり、団体に入っていない学生に向けてツアーを組んで被災地のことを知ってもらう伝承活動を行っていました。

面接官B：なぜボランティアサークルに所属しようと思ったのですか。

私：理由は2点ございます。1点目は大学に入ったらこれまでにやったことのないことに挑戦したいと考えていたためです。2点目は被災地に自ら訪れ、震災について学びたいと思ったためです。私の地元は愛知で昔から南海トラフ地震の危険というのが言われた地域であり、災害に対する備えや被災後の復興について学んでおきたいと考えたためです。

面接官B：なるほど。ありがとうございます。サークルの中で代表を務められたということですが、これは立候補ですか。

私：はい。立候補です。

面接官B：なぜ立候補したのですか。

私：団体に入った理由と重なる点がありますが、これまで何かのリーダーになるという経験がなく、社会に出る前に一度経験してみたいと考えたためです。

面接官B：面接カードにも苦労したことが書かれていますが、具体的にどういったことで苦労されたのですか。

私：団体で苦労したことは様々ありますが、最も苦労したことは助成金申請です。私たちの団体では企業などから助成金をもらうことで活動していて、助成金をもらうために申請が必要となっています。この申請を行う際に、私と会計係で作った申請フォームを添削してもらったのですが、どういう目的で助成金をとっているか、なぜコロナ禍の真っ最中に助成金申請を出すのか、財政状況はどうなっているのかなどの情報が十分共有できておらず、意見が対立してしまいました。

面接官B：このときどうやってその対立を解消しましたか。

私：先ほど話した通り、対立の原因として目的意識や団体の現状が十分共有できていなかったことがあると考え、まずは団体に入って間もない人でも分かるように助成金の意義や財政状況の説明を行いました。その上今回コロナ禍の真っ最中に助成金申請を行う意義についても説明し、納得してもら

った上で申請書の添削を進めました。

面接官B：分かりました。ありがとうございます。

面接官C：続いて私から日常生活その他について質問いたします。資格をとられたということですが、なぜ取られたのですか。

私：面接カードにも記載させていただいた通り、大学入学時コロナで外出ができなかった際、少しでも将来的に役立つ能力を身につけたいと思い簿記とITパスポートを取得しました。簿記については商学部であった父の勧めがあり、ITパスポートは情報学部だった母の勧めがあり、私自身も資格について調べる中でこれら2つの資格が様々な業界で役に立つものだと考えたためです。

面接官C：勉強はどう進めましたか。

私：書店で購入したテキストや問題集を使って進めました。しかし法学部の私にとっては簿記もITも専門外のため専門用語が分からないなどの基礎の部分でつまづくこともあったので、その時のインターネットで用語の意味などを調べるようにして学習を進めました。

面接官C：これらの資格はどれくらいの難易度ですか。

私：どちらも合格率だと50%ほどです。

面接官C：それだったらどちらもそこまで難しい試験ではないのではないのでしょうか。

私：確かに合格率で見るとそこまで難易度は高くないと思います。しかし私にとっては法学部でそれまで触れたことのない会計学やITの分野を大学の勉強と両立しながら学ぶことは大変でした。

面接官C：なるほど。

面接官A：ではこれで面接を終了いたします。

私：本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

(2)面接を終えての印象

緊張はしたものの質問の多くはオーソドックスなものであり、これまでに模擬面接で受け答えのしたものが多かった印象でした。一番想定外だった質問は資格の難易度の質問で、面接官から「そこまで難しい試験ではないのでは」と言われたが、それに真っ向から否定するのではなく、同意した上で自分にとって何が難しかったかということ落ちついて答えられたので良かったのではないかと思います。想定外の質問が飛んできましたが、それに対して焦ることや面接官と対立

するような回答をせず受け答えできたのは、模擬面接を何度も受けて場数を踏んだからだと思います。

(3) 模擬面接と比べて実際はどうだったか

模擬面接の場でも言われたことがありますが、面接カードに書かれていることすべて質問されるとは限らなかったです。私の場合は志望動機、志望官庁は一切聞かれませんでした。また、3人の面接官がいましたが、面接官Aと面接官Bには穏やかな表情で質問していただいたのでリラックスして答えられましたが、面接官Cは入ったときから肘をついて話を聞かれていて、質問する際も無表情でぶっきらぼうに質問される方だったので（圧迫までいきませんが）緊張がとけませんでした。

(4) 他受験生の印象

他の受験生と話せる場面はなかったので正直分かりませんが、皆集合の15分前には待っていて、私語もなく、自分のノートや面接カードを見返していました。個人的には官庁訪問よりも緊張感があつたかと思います。

(5) 受験生へのアドバイス

多分特殊ケースですが、私の受けた会場では表の道路が改修中であつ、なぜか窓が開いていたためかなり声が聞き取りづらい環境でした。実際に私も聞き取れない場面があつたので、その時は素直に「もう一度おっしゃっていただいてもいいですか」と聞いた方がいいと思います。また、これも会場によって異なると思いますが、私の場合は12:30に集合だったので家で軽食をとり、特に軽食を持たずに会場に行きました。一度会場に入ってしまうとトイレ以外で外に出られず、飲食物が買えません。しかも私は集合から1時間ほどで面接でしたが、長いと4、5時間待たされるようです。飲食物を持って行くことを強くおすすめします。更に集合時間を過ぎると電子機器はすべて電源オフにするように指示され、面接が終わり建物を出るまで電子機器は使えません。直前に見返したいものは紙媒体で持って行くことをおすすめします。

あとこれは私の失敗談ですが、面接カードは3部（うち1枚は原本）を持って行くよう指示がありましたが、面接カードの上には記載がなく、それを見逃し

て原本を持参し忘れてました。幸いそこまで大きな問題ではなかったようで受験できましたが、人事院面接は持ち物が多いので忘れ物がないようにしましょう。

国土交通省

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年7月21日（金）

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：20分

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：さいたま新都心合同庁舎。部屋は大きく、面接官との距離は5m位離れていた。

私：失礼いたします。

面接官：受験番号と名前お願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくをお願いいたします。

面接官：着席してください。

面接官：志望動機を教えてください。

私：はい、「この国のどの地域でも豊かに暮らせる」そんな社会の土台作りをしたいと思い、国家公務員を志しました。

面接官：大学では何を学んでいるの？

私：はい、大学では地域づくりを、ゼミでは舗装工学を学んでおります。

面接官：地域づくりと舗装か～志望官庁の国土交通省にピッタリだね。

私：私もそう考えております。

面接官：グループワークではどのような立ち位置だった？

私：はい、私はグループワークではまとめ役や指示役を担うことが多かったです。

面接官：そこでトラブルや大変だったこととかはなかった？その乗り越え方は？

私：グループワークで大変だったことはありました。グループワークとなるとどうしてもサボってしまう人がいます。グループワークでは役割を分担していたので、一人がサボってしまうと皆に迷惑が掛かってしまいます。このサボってしまう人をどう作業に向かわせるかが大変でした。幸い、その人は初動がとても重い人であり、最初の作業と一緒にやると継続して作業をしてくれる人でした。ここから最初の作業は共同で行うことで解決しました。

面接官：そうですか。ありがとうございます。

面接官：人との距離を縮めることが得意と面接カードに書いてあるけど、その時に意識していることはある？

私：はい、あります。まずは自分から警戒を解くこと。できるだけ自然体でいることです。次に自分の事を話すこと、そしてよく笑う事です。目的は相手の警戒を解くことにあります。

面接官：はい、ありがとうございます。

面接官：面接カードの興味を持ったことにラーケーションって書いてあるけど、公務員としてこの活動はどうおもう？

私：はい。とても魅力的な活動だと考えています。なぜならラーケーションによって観光活動につながることや、普段子供たちと過ごせないご両親にとって、ラーケーションは子供たちと過ごせる貴重な機会になるからです。

面接官：はい。ありがとうございます。これで以上になります。ありがとうございました。

(2)面接を終えての印象

思っていたよりはしっかりとした受け答えができたのではないかなと考えています。質問される内容は面接カードに沿った内容や、事前に対策をしていた内容ばかりでした。また面接官の雰囲気も柔らかく、緊張をしなかったことも大きいのかとも考えています。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

ほぼ同じでした。自分がなぜ国家公務員を志望するのか。中でもどこを志望するのか。しっかりしたコミュニケーションが取れるか。これらができていれば問題ないと考えています。

(4)他受験生の印象

緊張している人がちらほらいました。人事院面接までいくつか面接があったので多くの人は面接に慣れてきたのか、官庁訪問よりも待合室の空気は柔らかかったように思います。

(5)受験生へのアドバイス

面接会場には早めに行き、水を買っておくこと。人によっては緊張して喉が渇くのかなと思います。

面接では笑顔がとても大事です。ずっとニコニコしていきましょう。面接では最初に緊張しているか聞かれると思います。緊張している、していない、どちらでも緊張していると答えるといいかもしれません。この時に少し照れながら、ニコニコしながら答えるといいです。緊張がほぐれることや、面接官と自分との空気が緩くなります。これによって質問に受け答えやすくなる気がしました。

地方上級、政令市、国家一般職、国家専門職等

愛知県警察職員

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年6月26日（月）

面接官（何名いたか等）：1回目は2人、2回目は3人とメモのみを取る面接官が1人

面接時間：1回目は11：20～11：50（30分間）、2回目は15：10～15：50（40分間）

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：部屋の大きさは、学校（中学や高校）の教室と同じぐらいか少し狭いぐらい。面接官との距離は2メートルぐらい。

1回目

私：失礼いたします。

面接官A：受験番号と名前お願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしく願いいたします。

面接官A：着席してください。

面接官A：この面接は人柄を見たいので、緊張せず自然体でいてくださいね。

私：はい。

面接官A：朝ごはんは食べてきましたか？

私：はい、しっかり食べてきました。

面接官A：ここまでどうやってきましたか？

私：母に送ってもらいました。

面接官A：わかりました。では、面接カードにも書いてありますが、一応自分の口から簡単に志望動機を教えてください。

私：はい、私は昨年留学をした際に、大麻の存在を身近に感じ、恐怖を覚えたことが治安について考えさせられるきっかけになり志望しました。地元である愛知県を安全安心の街にすることに貢献したいと思います。そのため

には、警察官の方や職員の方が生き生きと働ける職場づくりや環境づくりが必要だと考えます。そこで、警察職員として、警察官の方や職員の方のサポートをすることが、街の治安維持につながると思います。留学で培ったコミュニケーション力や、アルバイトでの電話対応や事務作業の経験を活かして、県民の方や警察組織で働く仲間に信頼される警察職員になりたいと考えています。

面接官A：警察官や職員の方が生き生きと働ける職場づくりには、具体的にどのようなことをしますか？

私：はい、困ったことや仕事で悩んでいることがあっても、誰かに自分から相談することは難しいと思います。そこで、私は少しでも元気がなさそうな方や疲れていそうな方がいたら積極的に話しかけたり、普段の日常会話の中で最近何か困っていることはないか自然に聞いていこうと考えています。

面接官A：わかりました。留学では大麻を吸ったということですか？

私：いえ吸ってはいません。留学先では寮だったのですが、治安のいい寮と悪い寮がありまして、悪い寮で大麻を吸っているアメリカ人がいると友人から聞きました。また、アメリカ人の大学生が主催するホームパーティーに参加した際、アメリカ人に大麻を吸ったことがあるか聞かれました。日本では身近なものではないためとても驚きました。

面接官A：わかりました。では、社会人と学生の違いは何だと思えますか？

私：はい、責任の重さだと思います。学生の頃は何か失敗しても親が責任を取ってくれるという安心感がありましたが、社会人は違います。自分が行った行為の責任はすべて自分に來ます。なので、今までよりもよく考えて行動することが重要だと思います。

面接官A：確かにそうですね。では次に短所を教えてください。

私：はい、私の短所は完璧を求めすぎるところです。例えばアルバイトで、紙を切るという単純な作業を任されたときに、練びつりに切りすぎて、きれいにはできませんが時間がかかってしまいます。

面接官A：時間がかからないように工夫していることはありますか？

私：そこは今私の課題です。

面接官A：そこが課題だとわかっていることはとてもいいことだと思います。では私からは以上です。

面接官B：こんにちは。〇〇と申します。ではいくつか質問させていただきま。アルバイトは何をしていますか？

私：はい、家電量販店で接客の仕事をしています。

面接官B：具体的にどのような業務がありますか？

私：はい、主にレジ、サービスカウンター、倉庫の業務がありますが、私は基本的にサービスカウンターを担当しています。電話対応や修理受付、部品の発注、お会計、部品、修理品、注文された商品の出荷など多岐にわたります。

面接官B：わかりました。今まで仲間と衝突した経験はありますか？また、どのように乗り越えましたか？

私：はい、アルバイトでミスをしたときです。特に自分のミスで他の人が被害を被った時や、他の人にミスをフォローしてもらったときです。まずは謝ります。そのあとにどのように対応したか聞いて、次に同じミスをしないようにメモを取ったり、最善の注意を払って業務を行うようにします。

面接官A：「自覚している自分の性格」を考えるのは難しいと思いますが（面接カードのその欄を空欄で提出したため）、周りからどのような人だと言われますか？

私：はい、陽気な人だといわれます。普段からくだらないギャグを言ったりしています。冷やかな目で見られることも多いですが、笑ってくれることもあります。人を笑わせることが好きなので自分も楽しいです。

面接官B：（微笑）なるほどわかりました。では私からは以上です。

面接官A：では最後に〇〇君にギャグをやってもらおうと思いましたが、時間が来てしまったのでこれで面接を終わりたいと思います。お疲れさまでした。

私：はい、ありがとうございます。

私：（立って）失礼します。

私：（ドアの手前まで行き）失礼しました。

（退出）

2回目

私：失礼いたします。

面接官C：受験番号と名前お願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしく願いいたします。

面接官C：着席してください。

面接官がそれぞれ軽く自己紹介

面接官C：ここの面接室では〇〇君が最後の受験生になるので、待ち時間長か

ったと思いますが緊張はなくなったかな。

私：はい、もう緊張していません。

面接官C：答えづらい質問もするかもしれないけど、頑張って答えてね。

私：はい、よろしくお願いします。

(ここからは質問の順番は覚えていませんので内容のみ)

面接官C：これから警察組織というものに入るわけですが、たばこのポイ捨てなど些細なことも大きな問題になりえますが大丈夫ですか？

私：はい、やってはいけないことをやらないことは当然のことなので大丈夫です。

面接官C：最近電車が遅れることがありますが、これはなぜだと思いますか？

私：すみません、理由まで考えたことがなかったです。

面接官C：これはね、ながらスマホだと思う。(この後に何か説明していましたが忘れました)

面接官D：よろしくお願いします。では、今まで困難を乗り越えた経験はありますか？

私：はい、それは公務員試験です。大学受験は周りに同じ受験生がたくさんいたので一緒に頑張れましたが、公務員試験は孤独でした。やはり仲間がないというのはとてもつらいと学びました。

面接官D：大変だったと思いますが、モチベーションの保ち方はありましたか？

私：はい、白バイやパトカーのジムカーナの動画を見てカッコいいなと思っていました。

面接官D：警察職員にはどのような業務があるかご存じですか？

私：はい、免許センターでの受付業務、職員の方の給与管理、警察組織の情報の管理等です。

面接官D：はい、すべて正解です。落とし物管理もあるのを知っていますか？

私：はい。

面接官D：落とし物では蛇やトカゲ、犬猫などの動物もきますが大丈夫ですか？

私：はい、犬は以前飼っていたので大丈夫です。爬虫類はちょっと厳しいです。猫も、はい、大丈夫です。

面接官D：わかりました。私からは以上です。

面接官E：ではよろしくお願いします。面接カードの「自覚している性格」が空欄ですが、周りの人からどんなひとだといわれますか？

私：はい、陽気な人だといわれます。いつもくだらないギャグばかり言っているので、冷ややかな目で見られることも少なくないですが、人を笑顔にさ

せることが好きなのでやっています。

面接官E：(微笑)わかりました。繁忙期には残業があることがありますが大丈夫ですか？

私：はい、アルバイトでもなかなか定時に帰ることは難しいので、慣れているので大丈夫です。

面接官E：ストレス発散法はありますか？

私：はい、妹と一緒にゲームをすることと、寝ることです。

面接官E：妹さんと仲がいいんですね。妹さんはいくつですか？

私：中3です。

面接官E：趣味に旅行と書いてありますが、これは主に誰と行きますか？

私：主に家族です。ドライブもかねて両親と運転を交代しながら行きます。

面接官E：家族仲がいいんですね。

面接官C：国家公務員も受験されていますが、もし両方受かったらどうしますか？

私：はい、もちろん愛知県警に行きます。

面接官C：ほんと(笑)？国家の方がなんかかっこよくない？

私：実は私の母が指定難病を患っておりまして、県をまたぐ転勤がある国家公務員は現実的に厳しいです。

面接官C：どんな病気を患っているのですか？

私：はい、自己免疫疾患という免疫関係の病気で、自分の細胞が自分の細胞を破壊してしまう病気です。気温が低いと手に血が通わなくなり、ペットボトルの蓋も開けられないぐらいの握力しかありません。

面接官C：それは心配ですね。では、最後に言っておきたいことはありますか？

私：少し考える時間をいただいてもいいですか？

面接官C：全然いいですよ。他の受験生との勝負です。

私：(2分ほど時間をいただき)はい、私はコミュニケーション力がある人間です。留学では、ボランティアで小学校に訪問し、小学生と遊んだり日本のことについて教えることをしました。言語も生まれも年も違う小学生とコミュニケーションをとることは非常に難しかったのですが、表情とジェスチャーだけは万国共通だと思い、とにかく笑顔とオーバーアクションを意識しました。その結果小学生と仲良く遊ぶことができ、小学生の子から話しかけてくれるようになりました。この経験を活かして、どんな人ともコミュニケーションをとって仕事をしていきたいです。

面接官C：ではコミュニケーション力を活かしてくれるんですね。わかりまし

た。ではこれで面接を終わります。お疲れさまでした。

私：ありがとうございました。

私：(立って)失礼します。(ドアの手前まで行き)失礼しました。

(退出)

(2)面接を終えての印象

やり切った感はありませんでした。今まで模擬面接を一度も受けずにぶっつけ本番で受けたので、うまくいったかよくなかったかわかりませんでした。しかし、笑顔と元気の良さには自信がありましたが、簡潔にわかりやすく答えることができなかったかなと思いました。結構だらだらと話してしまい、話が長くなってしまったのでそこが改善点だったと感じました。面接官の笑いも少し取れたので、そこは好印象だったのではないかなと思いました。筆記試験で点数は稼げていないと思いますが、結果として2位で合格できたので、面接で楽しそうに話すことができたのが好印象で合格できたのかなと感じました。やはり面接官も人間ですので、真面目に覚えてきたうまいセリフのような受け答えをするよりも、少し言葉に詰まっても大丈夫なので、自分の意見を自分の言葉で笑顔で伝えられることが重要だと思いました。

(3)他受験生の印象

落ち着いた雰囲気で、みな真面目そうに見えました。私語禁止だったため、終始静かな雰囲気でした。

(4)受験生へのアドバイス

場所は少しわかりにくかったので、同じ方面を歩いていた就活生に話しかけたらやはり同じ面接の受験生だったので、途中から一緒に行きました。

終始私語禁止と携帯が使用できなかったのが、親などには事前に終わるまで連絡できないことを伝えたほうが良いです。

午前と午後で全員2回面接があるということが、当日までわかりませんでした。人によって午前と午後でそれぞれ面接の時間が違うのですが、集合時間は全員同じなため早く帰れる人と遅くまで残らないといけない人がいました。私は、午前最後から2番目、午後は最後だったため待ち時間だけで5時間半ほどありまし

た。何もできずただひたすら椅子に座って待っているだけだったので辛かったです。待ち時間が大変暇なため、受験先の資料や本を持って行った方がいいかもしれません。

面接が6月で暑いので服装はクールビズで大丈夫です。(私はわからなかったためジャケットも着てきました)

裁判所事務官

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年7月4日（火）

面接官（何名いたか等）：3名（女性1名、男性2名）

面接時間：14：50～15：10（20分間）

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：学校の教室2つ分程度の大きさ、面接官との距離は5メートルほど。

私：失礼いたします。

面接官A：どうぞお掛けになってください。

私：失礼いたします。

面接官A：本人確認のため、受験番号と生年月日、お名前を教えてください。

私：受験番号〇〇、生年月日は〇月〇日で、〇〇〇〇と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

面接官A：よろしくお願ひいたします。今日は暑いですね。ここに来るのは初めてですか？

私：いいえ、裁判の傍聴で何度か伺ったことがあります。

面接官A：傍聴に来てくださっているんですね。それならきっと迷わずに来られたでしょうね。これから面接を始めますが、リラックスしてお答えくださいね。

面接官B：（面接カードの志望動機の欄を見て）裁判所事務官を目指すよりも前に公務員を目指していたんですね。

私：はい。元々は〇〇を目指していたのですが、公務員試験対策として法律を学ぶうちに法律に関わる仕事をしたいと思うようになり、裁判所事務官に興味を持ちました。その後裁判の傍聴に伺い裁判所事務官の方々が実際に働いている姿を見て、私も裁判所職員として迅速適正な裁判の実現を支えたいと思うようになりました。

面接官B：サークル活動についてお聞きしますが、サークルではどのような役職に就いていましたか？

私：会計係として、サークルの資金を管理していました。

面接官B：会計係として何か頑張ったことはありますか？

私：会計係として、サークル活動で使っている教室のリフォームに取り組みま

した。その教室は暫く使われておらず活動の拠点とはしにくい状態でしたが、余ったサークルの資金を利用して机や椅子、棚などを購入し、部員が過ごしやすいような環境を整備しました。

面接官B：サークルの方からの反応はどうでしたか？

私：部員の方にも喜んでいただけて、今でもその教室を使っていたいています。

面接官B：アルバイトは塾講師をされているとのことですが、何か工夫していたことはありますか？

私：小学生の指導を特に工夫していました。小学生の中には、勉強に対してつまらないというイメージを持っている生徒もいましたが、そのような生徒に対しては適度に雑談を挟んだり、その生徒が好きなものに関連付けて指導するなど、生徒が楽しみながら勉強できるように心がけていました。また些細なことでもたくさん褒めて、生徒がモチベーションを維持できるようにしていました。

面接官B：〇〇さんは話していると安心できるような方だと感じましたが、〇〇さんは周りからどんな人だと言われることが多いですか？

私：温厚な人だと言われることが多いです。

面接官B：そう言われることについてご自分ではどう思われますか？

私：日頃から人に優しく接しようと思がけているので、そのように評価してもらえるのはとても嬉しいです。

面接官C：友達からはよく相談されるほうですか？

私：はい。よく相談されます。

面接官C：相談に乗る時に何か気をつけていることはありますか？

私：相手を否定しないことです。相手の考えが自分の考えと異なっていた場合でも、相手の考えを尊重し肯定するようにしています。意見を求めているわけではなく、ただ話を聞いて共感してほしい、という気持ちで相談することも多いと考えるからです。

面接官C：〇〇さんから友人に相談することはありますか？

私：はい。私も悩みがあれば友人に相談するようにしています。友人とはお互いに何でも話せるような、良い関係を築けていると思います。

面接官C：苦手なタイプの人はいいますか？

私：ルールやマナーを守らない人が少し苦手だと感じます。

面接官C：どのようなシチュエーションでそのような人を苦手だと思いますか？

私：例えば電車などの公共交通機関で大音量で音楽を聴いている人や、図書館などの静かにしなければいけない場所で騒いでいる人を見ると、苦手だと感じます。

面接官C：そのような人に対して注意しますか？それとも我慢しますか？

私：友人には注意しますが、知らない人に対して注意はしません。トラブルになる可能性があるからです。

面接官C：これ以降は選考に関係のない質問となります。併願状況に変更はありますか？

私：(答える)

面接官C：健康上の問題は何かありますか？

私：いいえ、特にありません。

面接官C：交通違反歴はありますか？

私：いいえ、ありません。

面接官A：面接をしてみてどうでしたか？

私：初めはとても緊張していましたが、面接官の皆様が優しく話を聞いてくださったので、自分の思っていることをお伝えできたと思っております。

面接官A：そうでしたか、それは良かったです。最後に何か質問はありますか？

私：(逆質問3つ。皆様とても親切に答えてくださいました)

面接官A：それではこれで面接を終わります。

私：本日は貴重なお時間を頂きありがとうございました。それでは失礼いたします。

(2)面接を終えての印象

終始和やかな雰囲気でした。私は志望動機が特に弱いので足切りされるのではないかと感じていましたが、話し方や人柄を面接中に褒めていただけたので、人物面を評価していただけたのではないかと思います。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

模擬面接で聞かれた質問と同じような質問をされたことが何度かあったので、模擬面接を受けていて良かったなと思いました。裁判所の面接は1つのテーマに対して深掘りされる傾向があるようなので、裁判所を受験される方は模擬面接で深掘りに対する練習をしておくといいと思います。

(4)他受験生の印象

試験会場の構造上2～3人しか他の受験生を見かけませんでしたが、皆さん真面目そうで仕事ができそうな印象でした。

(5)受験生へのアドバイス

裁判の傍聴に行っておくことをお勧めします。当日迷わなくて済むのももちろんですが、面接の話題になることもありますし、何より裁判所事務官や裁判所書記官の方々が実際にどのような仕事をされているのかを見ることができます。

また裁判所の面接カードはかなり早い時期（一次試験合格発表直後）に郵送で提出する必要があるので、早めて書いて講師の方のチェックを受けたほうが良いと思います。

東京税関

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年8月16日

面接官（何名いたか等）：（1・2回目）2人、（3回目）人事の方1人

面接時間：20分程度

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：（1回目）大きめの部屋、（2回目）荘厳な雰囲気の小さい部屋

1回目

（控室から2人ずつ呼ばれて面接室の前まで移動、待機）

（この間、案内係の方が話しかけてくださって少し緊張もほぐれる）

（「ノックを2回して、かばんは近くの椅子の上においてください」と説明を受け入室）

私：失礼します。（椅子の横に立って）〇〇〇〇と申します。本日はよろしくお願いたします。

面接官A：よろしくお願いたします。どうぞおかけください。

私：失礼します。

面接官A：台風の影響はなかったですか。

私：日程の変更がありましたが、台風による災害にあったなどはありません。

面接官A：それは良かったです。それでは、本題に入りたいと思います。〇〇さんは実家が〇〇とのことですが、なぜ東京税関を受けられたのですか。

私：少し長くなってしまいますが、よろしいでしょうか。

面接官A：どうぞ。

私：まず、地元と違う関東甲信越で受けた理由は、もともと〇〇庁を志望していたからです。その官庁で働くにあたって、業務の幅広さなど経験を積むことができ、それが社会貢献に繋がっていると強く実感できると感じ、関東甲信越で頑張ってみたいと思うようになりました。次に、なぜ東京税関を志望したのかですが、物流量や人の出入りが多い空港や港を管轄する東京税関で安心安全を守ることができる仕事に魅力を感じたからです。また、全国の税関の中心的存在である東京税関で、ここでしかできない技術や経験を積みたいと思ったからです。

面接官A：わかりました。ありがとうございます。〇〇さんは法学部の出身だと思いますが、学んできたことをどのように活かせると思いますか。

私：直接学んできたこととつながるかは分からないのですが、空港旅具では正義感を活かせると思います。ここで違法なものを止める、許さないという気持ちで取り組みたいです。また、通関業務でも活かせることがあります。現時点では関税法等の知識はありませんが、法律の読み方、解釈の仕方というところで学んできたことを活かしたいです。

面接官A：なるほど。ぜひ、活かしてもらいたいですね。税関に採用されると、集団生活することになります但不安なことなどはありますか。

私：特にありません。寮生活をしていたことがあるので特に抵抗もありません。

面接官A：体力や夜勤で不安なことはありますか。

私：特にありません。

面接官B：では、私の方から。大学より前に集団に所属していたことはありますか。

私：あります。小学生の時に金管バンド部に、中学生の時に吹奏楽部に所属していました。

面接官B：音楽をずっと続けてこられたんですね。今でも楽器はしていますか。

私：今はしていません。しかし、楽器を持っているので社会人になって余裕ができたときなどにもう一度やりたいとは思っています。

面接官B：いいですね。それがストレス発散になるとも思いますので。趣味特技のところで気になったのですが、おもしろい特技をお持ちですが、何かアピールできることはありますか。

私：一つひとつの出来事に感情などをつなげて覚え、アウトプットすることができると思います。一度通った道を忘れないという特技は、周りの風景や建物などを写真として記憶したり、それらを見て感じたこととつなげて記憶したりすることで身につけたものです。税関職員として働くにあたって様々な業務があり、覚えることも多くあると思いますが、この特技を活かして身につけ、実際に使えるようにしていきたいです。

面接官B：アルバイトは別々のところでされていますが、そのきっかけは何でしたか。

私：1つ目のバイトを始めたのは、なるべくお客様と関わることのない裏方でしたかったからです。初対面の人と接することが苦手だったのでそのようにしたのですが、これから社会人になるうえで、克服しておくべきこととも思うようになりました。そこで、その当時募集がかかっていた2つ目の

お店で働くようになりました。

面接官B：そうだったのですね。人との関わりが苦手だったということですが、特に困ったことはありますか。

私：始めは、従業員の方とのコミュニケーションもうまく取れず伝達ミスやトラブルがあったことです。困ったことがあっても自分一人で解決すれば迷惑にならないと思い、抱え込んでいましたが、結果的にお客様はもちろん、従業員の方にも迷惑をかけてしまいました。

面接官B：どのように克服されましたか。

私：挨拶や世間話を積極的にすることで困った時に相談しやすい環境を自分自身で作ることを心掛けて克服しました。

面接官B：大変でしたね。そんな経験を乗り越えてきて、集団で活動するにあたって何が一番大事だと思いますか。

私：困った時に相談できることです。これは単に分からないからすぐ聞くというのではなく、自分でわかるころまでは考え、それでもうまくいかないときに相談できるというものです。

面接官B：本当にその通りです。税関の仕事には様々な人が関わるので、迷惑をかけないためにも分からないことは素直に聞くことができるということが必要になってきます。私からは以上です。

面接官A：これで面接は終了したいと思います。ありがとうございました。

私：本日はお忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございました。

2回目

台風の影響はあったか、なぜ東京税関か等、1回目に聞かれたものもありましたが省略します。

面接官C：興味のある仕事はありますか。

私：はい、3つあります。空港旅具と犯則調査、ハンドラーです。

面接官C：体力や精神的に大変だが大丈夫ですか。

私：問題ありません。

面接官C：健康面で何か気を付けていることはありますか。

私：早寝早起き朝ごはんのリズムを整えることと、食事も栄養バランスに気を付けています。

面接官C：じゃあ、好き嫌いなく何でも食べられるタイプですか。

私：苦手なものはありますが、残さずに食べるようにしています。

面接官C：何が苦手ですか。

私：今の時期であれば茄子が苦手です。

面接官C：どのようにして克服しようとしていますか。

私：調理方法で違ってくると思うので、様々なものに挑戦して美味しいと思える経験をすることで克服に繋がると思っています。

面接官C：わかりました。そのような努力をされていることはいいことです。では、仕事の話に戻って、様々な部門があるけれどモチベーションはどのように保っていきますか。

私：はい、私自身は様々な部門の業務があることに対してマイナスな印象というよりも、やってみたい、ワクワクするといったような感情を持っています。自分でできることが増えることがうれしい、いろいろなことを学びたいという気持ちがあるので、モチベーションを高く持って取り組めると思っています。

面接官D：親御さんは関東での就職について何と言っていますか。

私：やりたい仕事があるのであれば頑張りなさいと応援してもらっています。

面接官D：全国に出先機関があるわけではないので、地元に戻るということは難しくなるが大丈夫ですか。

私：大丈夫です。

面接官D：介護などの関係で帰らなければならなくなったらどうしますか。

私：その点についても話はしていて、仕事の迷惑を掛けたくないでそうなった場合は施設に入れてほしいと言われています。

面接官D：わかりました。〇〇さんは、グループ内での立ち位置はどのような感じですか。リーダーか、サポート役か、など。

私：私はサポート役が多いと思います。これまでに、中学生の時は部活動ではパートリーダーとして部長副部長を支えてきました。リーダーよりも二番手として様々な人の話を聞き、仲介役として役割を果たすことで全体としていい方向に向かうことができました。

面接官D：では、友人と遊ぶ時に大人数で遊ぶことが多いですか、少人数で遊ぶことが多いですか。

私：少人数で遊ぶことが多いです。ただ、大人数で遊ぶようになったときにも喜んで参加しますし、仲良くできます。

面接官D：(うんうん頷いて) バイトのことで聞きたいのですが、接客と調理の両方を掛け持ちしていると思うけど、どっちが向いていたと思う？

私：はじめは、調理の方が向いていると思っていましたが、周りの方とコミュ

ニケーションがとれるようになっていたり、お客様に感謝されるような行動が
できたりするようになって接客の方が向いているのかもしれないと思うよ
うになりました。

面接官D：これからも両方続けていく予定ですか。

私：はい。

面接官D：何か続けようと思う理由がありますか。

私：辞めたいと思う理由がないからです。周りの環境がいいこともありますが、
私自身も成長できると実感しているのでこのまま頑張りたいと思っています。

面接官C：そうですか、わかりました。こちらから聞きたいことは以上になり
ますが、何か伝えたいことはありますか。

私：もともとは違う官庁を志望していましたが、正義感を活かして安心安全な
社会の実現に携わることができるという点や、適切な税の徴収をするとい
う点で通ずるものがあると思います。ぜひ東京税関の一員としてそのよう
な業務に携わりたいと思っていますので、よろしくお願いします。以上で
す。

面接官C：はい、ありがとうございます。以上で面接を終わりたいと思います。

私：本日はお時間を頂き、ありがとうございました。

3回目

3回目は面接ではないと言われ、人事の方と面談。面接の出来や、面接で聞か
れたことを含めて聞きたいことを聞かれる。

(2)面接を終えての印象

1回目はすごく和やかで笑いなどもありましたが、2回目は厳しい雰囲気であ
いなどはほとんどありませんでした。

2回目を終えた時点で不合格を覚悟しましたが、3回目の人事の方との面談で
は2回目の方の評価が良かったことを匂わされたので驚きました。

(3)他受験生の印象

同じ時間帯に集合した受験生は4人でした。基本的には私語をしない雰囲気
で、すれ違うこともほとんどなかったのわかりません。

(4)受験生へのアドバイス

場所についてはわかりやすく、駅からも3分ほどで着きます。30分前に着くようにしていましたが、他の受験生は15分前くらいでギリギリな方が多かったように思います。身だしなみを整えたり、落ち着いたりするためには少し早めに着くことをお勧めします。

東京国税局

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年8月16日（水）

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：大体12：30～16：00ぐらいだったと思います

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：20m×20mほどの部屋で簡単な仕切りで区切られていました。面接官とは2mほどの距離感でした。

私：失礼いたします。

面接官A：どうぞお座りください。

私：はい、失礼いたします。

面接官A：確認のため、受験番号とお名前を教えてください。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。

面接官A：はい、ありがとうございます。今日は〇〇からいらっしゃったんですか？

私：はい、そうです。

面接官A：そうなんですね、大変でしたね。新幹線で？

私：いえ、今朝夜行バスで来ました。

面接官A：東京に着いてから今まで何をしてたんですか。

私：ネットカフェにいたり、そこら辺を散歩していました。

面接官A：そうなんですね、大変なところわざわざありがとうございます。それでは面接を始めていきたいと思います。まず、簡単に志望動機を〇〇さんの言葉でお聞かせください。

私：（志望動機を30秒程度で話した）

面接官A：納税の手助けをしたいとおっしゃっていましたが、具体的なイメージはありますか？まだ、働いていないので難しいと思いますので、何でもいいのでお聞かせください。

私：個人事業主にとっては消費税の仕組みや計算は難しいと思うのでそのような方が税務署に訪れた際には丁寧な説明をしたいと考えています。

面接官A：なるほど、消費税は複雑なものですので納税者にとって手助けになると思います。

面接官B：卒業論文ではどのようなことについて書くのか決まっていれば教えてください。

私：私はのれんやROEから将来の業績を予測できるのかについて執筆しようと考えています。データを集めて、回帰式を用いようと考えています。

面接官B：なるほど、のれんということで簿記については学習しているのですか？

私：はい、簿記3級は軽く勉強し、現在は簿記2級を学習中です。

面接官B：簿記は国税専門官で必要になってくるので、とても良いと思います。最近関心を持ったこと、パパ活やギャンブル飲みによる脱税とありますが、解決方法などは考えていますか？

私：はい、パパ活やギャンブル飲みを斡旋しているアプリ会社や企業に税務調査に入る、SNSでの監視体制を強化する、納税者の自主的な納税を促すためにパパ活による脱税の犯罪性について広く広報する。などを考えています。

面接官B：なるほど、ありがとうございます。

面接官C：自己PRに継続的に努力できることとありますが、現在継続していることはありますか。

私：はい、試験が終わった後でも勉強を継続しています。毎日5時間～6時間ほど簿記2級に取り組んでいます。

面接官C：なるほど、それほど勉強していたら簿記2級はすぐに取りそうですね。趣味は筋トレとありますが、ジムなどに通っているのですか。

私：はい、現在は週2、3日ほどジムに通っています。

面接官C：1回で何時間ほど筋トレするのですか。

私：1時間30分ほどです。

面接官C：筋トレを始めたきっかけは何だったのですか？

私：部活動です。私は高校時代に卓球部に所属していました。あまり動かないと思われがちな卓球ですが、強い人たちこそ体幹などがしっかりしていることに気づきました。そこで勝ち進むために筋トレに取り組み始めました。

面接官C：今までの運動経験を教えてください。

私：小学校で水泳、陸上。中学校、高校では卓球部に所属していました。

面接官C：そうなんですね、じゃあかなり体力には自信があるのですね。特技に掃除とありますが、どういったところが特技と言えるのですか。

私：毎日掃除機をかけた掃除をしますし、他の人が嫌がるようなトイレも週3回以上掃除しています。また、アパートの共同スペースの掃除も率先して

行っています。

面接官C：共同スペースの掃除まで行っているんですね。でも、みんなでやった方が早いとか思いませんか。なんで自分がやらなければいけないんだとか思いませんか。

私：私はきれいにすることが好きで自主的にやっているのですが、他の人も掃除するべきという価値観を押し付けて無理やりやらせようとは思いません。

面接官C：なるほど、ありがとうございます。最後に何か言いたいことや質問したいことがあればお願いします。

私：簿記2級取得後取るべき資格やスキルがあれば教えていただきたいです。

面接官A：税法はもちろんですが、国税専門官は対人で仕事をすることが多いので心理学などがいいと思います。

私：参考になります。ありがとうございます。

面接官A：本日の面接は以上となります。ありがとうございました。

私：ありがとうございました。失礼いたします。

(2)面接を終えての印象

国税専門官の面接は圧迫面接気味だという情報があったのですが、圧迫感は全く感じませんでした。答えにくい質問や意図が分からない質問はありましたが、それでも面接官の方は笑顔で詰まったらフォローを入れてくれるような、和やかな雰囲気面接は進んでいきました。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

アガルートの模擬面接は利用できなかったため、大学のキャリアセンターで模擬面接を行っていただきました。その時は学生時代力を入れたことや強みなど幅広く質問を受けましたが、実際の国税局の面接では面接カードに沿って進行されたので、あまり参考になりませんでした。やはり、アガルートのような公務員試験に特化した講師がいる予備校で面接対策をすれば良かったと後悔しました。

(4)他受験生の印象

皆さんある程度身だしなみに気をつけている方が多く、清潔感のある印象でした。一方で髪が長かったり、セットしていないという方も見受けられました。

国税は体育会系の雰囲気があると聞いていたので面接では短髪で前髪を上げた方が好印象なのかなと思っていました。

(5)受験生へのアドバイス

試験の時期は気温が上がってきて、ジャケットを着ていくか迷うことがあると思います。私はノージャケット、ノーネクタイで面接を受けました。ワイシャツのボタンは一番上まで全て留めていました。周りでも着ていない方がほとんどだったので、面接だからと言ってジャケットを着ることにこだわる必要はないと思います。

東京都庁

(1)面接の概要・内容

2次面接

面接日：2023年6月13日（火）

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：9：40～10：20（20分間）

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：広くも狭くもない普通の部屋でした。面接官との距離は2～3メートルほどだったと思います。ドアを開けたまま行うので隣の部屋の話し声なども聞こえてくるがありました。

私：失礼いたします。（荷物を机の上に置く→椅子の隣へ）

面接官A：受験番号と名前お願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくをお願いいたします。

面接官A：着席してください。緊張していますか？

私：はい、緊張しています。

面接官A：よく眠れましたか？

私：はい、今日は前泊して来たのでしっかりと寝ることができました。

面接官A：そうですか。それはよかったです。では、早速プレゼンを5分間やっていただき、その後に幾つか質問をしたいと思います。では初めてください。

私：（5分間プレゼン）

面接官A：はい、ありがとうございます。では、いくつか質問させていただきます。

面接官A～C：（プレゼンについての質問5つほど）×3

面接官A：はい、ありがとうございました。プレゼンについての質問は以上になります。次に、普通の面接に移らせていただきます。

面接官B：では、また私から質問させていただきます。目標を立てて行動する際にモチベーションを維持することが大変なこともあると思いますが、〇〇さんは目標達成までのモチベーションをどのように作っていますか？

私：はい、私は大きな目標を立てた上で、過程毎の小さな目標も設定するように意識しています。そうすることで、常に目の前の目標を意識した行動が

できると考えております。

面接官B：なるほど。では、〇〇さんは自分のことをリーダーのポジションに立つ方だと思いますか？

私：はい、私は人前で話すことなどが好きなため、リーダー的なポジションに立つことが多かったと感じております。

面接官B：東京都の職員としてグループで仕事をするようになった場合、あなたはどの立場につきたいですか？

私：臨機応変に対応できる職員になりたいと考えております。リーダーになりたい人が多い場合は、一メンバーとして、リーダーになりたい人がいない場合は進んで手を挙げられることができればより円滑に話し合いや仕事を進められるのではないかなと感じます。

面接官B：なるほど。では、話を変えます。〇〇さんは大学時代に学園祭の実行委員をやらせていたみたいですが、実行委員をやっていた団体数を増やす以外に何か課題はありましたか？（面接シートに書いた課題以外に何かあるかを聞かれました）

私：はい、団体の管理を私含む5人で管理していたため、団体数を増やしたことによって、学園祭当日のルール違反の取り締まりが困難となり、ルール違反が横行するという課題・問題が発生しました。

面接官B：その問題に対して、〇〇さんはどのように対処しましたか？

私：はい。まずは実行委員130人に団体のルール違反を取り締まるよう依頼しました。そうしたことで、2日目からはルール違反をすぐに見つけ注意することができるようになりました。また、すでに多くのルール違反をしていた団体に対して、グリーンカードという制度を新たに儲けました。これは、学園祭の円滑な運営に繋がる行動（例えば立ち食いしている来場者に注意するなど）をした団体に配布されるカードで、このカードを配布されると前日までのルール違反数を減らすことができるというシステムです。このカードによってすでに多くのルール違反をしていた団体からもよりよい行動を促すことができ、円滑な運営につながりました。

面接官B：なるほど、ありがとうございました。

面接官C：では次に私から質問させていただきます。〇〇さんは中学から高校を卒業するまで香港で生活していたとのことですが、日本と香港の「外国人への支援」という点で違うと感じたところはどこでしょうか？

私：はい。香港と日本では「母国語による支援」の充実度が違うと感じました。香港では英語のほかに日本語で病院を紹介・付き添ってもらえる支援など

もあり、私はとても心強いと感じました。

面接官C：そうですか。では、日本で外国人への支援を行う際にはどのようにすればいいと思いますか？

私：はい。私はやはり母国語の支援をより充実させた方がいいと思うので、すでに移住をして日本で生活に慣れている外国籍の方々に協力していただくのがいいのではないかと考えております。以前同じ状況だった人であれば、「相手がどんな支援を必要としているか」「どんな時に困ることがあるか」などを理解した上で支援することができますし、支援される側の人にとっても母国語の支援は心強いと思います。今後はさらに外国籍の人が増えていくと思いますし、日本人だけの支援では限界もあると思います。そこで、外国籍の人にも積極的に協力していただけたらとても充実した支援になると考えております。

面接官C：なるほど。では、予算をかけられないって言われた時、あなたならどうする？

私：はい。私は外国人支援は優先順位の高い課題であると思うので、それを理解していただけるよう上司の方などに説得すると思います。

面接官C：それでも予算は出せないと言われたらどうしますか？（深掘が2回ほどありました）

私：はい、その場合は予算のかからない方法を模索すると思います。例えばボランティアの募集や地域内での外国人同士の交流の機会を創出するなど、予算を必要最小限に抑えた上でできる支援・取り組みを考えるとと思います。

面接官C：わかりました。ありがとうございます。

面接官A：では最後に私から質問させていただきます。東京都にはさまざまな部署があるため、希望の部署ではないところで働く可能性があります。その場合、あなたはどうしますか？

私：都庁には幅広い分野と局があり、自分の希望する部署に配属される可能性の方が低いと考えております。ですが、様々な幅広い業務に携われるという点は都庁の大きな魅力であると思いますし、1つの部署で経験したことはそこで完結する訳ではなく、他の部署へと異動した時に必ず活かすことができると思います。そのため、どの部署に配属されたとしても都の職員として、自分が配属された意味を見出し、1つでも多くのことを吸収できるようにしたいと考えております。

面接官A：なるほど。では、もし上司や同僚に苦手な人がいた場合、あなたはどうしますか？

私：はい、苦手な部分があるということは自分にはないものを持っていると思うので、私見を広げるいい経験と考えて取り組むと思います。

面接官A：では最後の質問です。東京都の職員としてどうなっていたいですか？

私：はい、私は子供達の成長を支える立場として、現場と本庁の架け橋となれるような職員になりたいと考えております。本庁は現場との距離があると考えております。しかし、現場でしか聞こえない声や見えない課題があり、そのような声こそ本庁での施策立案に反映させるべきだと思います。そのため、現場と本庁の両方で働き、本庁で働く場合であっても現場の声に耳を傾けられる職員になりたいです。

面接官A：わかりました。では、面接は以上になります。ありがとうございます。

私：ありがとうございました。

3次面接

面接日：2023年7月23日（日）

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：10：55～11：20（25分間）

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：広くも狭くもない普通の部屋でした（2次面接と同じ）。面接官との距離は2～3メートルほどだったと思います。ドアを開けたまま行うので隣の部屋の話し声なども聞こえてくるがありました。

私：失礼いたします。（荷物を机の上に置く→椅子の隣へ）

面接官A：受験番号と名前お願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくをお願いいたします。

面接官A：着席してください。グループワークの直後ですが、緊張していませんか？（私はグループワーク直後でしたが、人によっては1時間以上待つ事があるみたいです）

私：はい、とても緊張しています。

面接官B：では、まずは私から質問させていただきます。先ほどのグループワークでは、時間内に発表を終わらせることができていませんでしたが、どうでしたか？

私：はい、全員が課題に対して誠心誠意取り組んでいたことは確かなので、少し悔しい気持ちもありました。

面接官B：では、どうすればよかったと思いますか？

私：はい、あらかじめ時間内に終わらせられるよう、発表者の大体の発表時間を話し合っておくべきだったと考えております。そうすることで、発表者自身も時間を意識した発表ができたのではないかなと感じました。

面接官B：グループワーク中、自分の行動で良かったと思う点がありますか？

私：はい、個人的には「ホワイトボードの内容を整理する人」と「プロジェクト名を考える人」で2つに分かれて話し合おうという流れを止めることができたのは良かったと感じました。プロジェクト名は全員で考えるべきものであると思いますし、2人のみでホワイトボードの内容を整理するのも効率的ではありません。ほぼ全員が賛成していた流れだったので、最初は躊躇しましたが、勇気を出して良かったと感じました。

面接官B：〇〇さんは、どういう立場で話していましたか？

私：はい、私は特に役職にはついていなかったもので、全員の様子をよく伺い、話し合いをできるだけ客観的に見ることを意識しました。そうしたことで、話し合いをより効率的に進めることができたと感じております。

面接官B：では、逆にグループの他の人で良くなかったと思う点がありますか？

私：はい、やはり先ほどお話しした、「ホワイトボードの内容を整理する人」と「プロジェクト名を考える人」で2つに分かれて話し合おうという提案をあまり良くなかったと感じました。確かに残り時間も少なくなっていましたし、時間を有効に使いたいという気持ちもわかりました。ですが、この試験は全員で考えた内容を発表するものであるため、そのような分け方はグループの分裂を生みかねないと思います。できるだけ全員で考え発表できるように、話し合いの創意工夫をすべきだと思いました。

面接官B：では、グループの他の人で良かったと思う点がありますか？

私：はい、グループワークでリーダーをして下さった方が、話し合い開始後すぐに立候補して下さったことがとても良かったと感じました。やはり皆様緊張されていましたし、最初は話し始めるのを躊躇していたようなので、そこで「私がやります」と立候補していただいたことで、いいスタートダッシュが切れたと感じました。

面接官B：さっき発表途中で終わっちゃったけど、今続き話せますか？

私：(発表の続きをしました)

面接官B：わかりました。〇〇さんは話し合いの時にリーダーをやることが多いですか？

私：はい、中学校までは比較的リーダーをやるが多かったと思います。高

校に入学後は、英語がほとんど話せずリーダーになることはありませんでしたが、リーダーに引っ張ってもらい立場を初めて経験する機会となり、グループのまとめ方や話し合いの進め方を客観的に考えることができました。

面接官B：なるほど。では、〇〇さんはグループワークで一番気をつけていることはありますか？

私：はい、私は話し合いでは1人でも多くの人が自分の意見を表明し、共有することが大切だと考えております。そのため、リーダーをする際には、できるだけ全員が意見を表明できる時間を作ることを心がけています。また、大人数の前で話すことが苦手な人も多いと思うので、話しやすい雰囲気作りなども気をつけています。

面接官B：話し合いでは途中で他のことをやってしまう人もいますが、そのような人に対してはどうしますか？

私：はい。集中力が続くのには限界があると思うので、話し合いが長引かないよう短くすることや、休憩を挟むようにしています。また、他のことをやってしまう人は大抵話し合いに参加していないことが多いので、グループを2つなどに分けて、より少人数での話し合いができるようにしています。

面接官B：なるほど、ありがとうございました。私からは以上です。

面接官C：では、次に私から質問させていただきます。〇〇さんの苦手な人はどんな人ですか？

私：はい。私は時間を守れない人、決まったことに対して裏で陰口・文句を言う人が苦手です。

面接官C：話し合いの中には黙っている人もいると思うんだけど、そういう人はいない方がいいと思いますか？

私：いいえ。そうは思いません。話し合いでは結論だけではなくその過程を知ってもらうことが大切だと思います。

面接官C：では、様々な主体の方と話すときに、〇〇さんのどのような持ち味をもって話していますか？

私：はい、私は相手の意見をよく聞くように心がけています。私はインターナショナルスクール入学直後、英語がほとんど話せずコミュニケーションを取るのがとても大変でした。しかし、同級生や先生は、私の英語だけではなく表情やジェスチャーなどにも目を向けて、私の言いたいことを理解しようと努力してくれました。その経験から、今では言語に関係なく、常に相手の行動や表情、話し方に注意を向けるようにしています。

面接官C：では、今の外国籍の子供達の声をどうやって聞くべきだと思う？

私：はい。子供達にとって言葉の通じない国での生活は、大人以上にストレスや心細さを感じると思います。そのため、まずは日本に住む外国籍の子供達同士が繋がる機会などを創出し、心細さを解消するべきだと思います。話せる雰囲気や機会作りを力を入れることで、子供達のよりリアルな声を聞くことができると考えております。

面接官C：では、外国籍の子供達に対する支援はどうすべきだと思う？

私：はい。言葉の通じない国での災害時こそ心細さや恐怖を感じると思うので、学校等で避難場所などをしっかりと教えておくことはもちろん、英語・母国語での表記を増やす、英語・母国語の対応スタッフを増やすなどの災害時対応に力を入れて取り組むべきだと思います。また、地域内などでコミュニティを作れるよう、外国籍の子供達やその家族が集まれる機会を積極的に設け、災害時に支え合える関係づくりに貢献すべきだと思います。

面接官C：〇〇さんの海外での生活という自分なりの経験があったのに、なんでそれをさっきのグループワークで発表しなかったの？（笑）

私：そうですね…。反省しております。（圧迫という感じではありませんでした）

面接官C：私からは以上です。

面接官A：では最後に私から質問します。市区町村や民間ではなく、なんで東京都を志望したんですか？

私：まず、東京都と民間の違いは影響力だと思います。東京都では東京都全体に関わる取り組みを行うので、スケールの大きな仕事ができ、またより多くの人々の生活を支えることに貢献できると考えたため民間ではなく都庁を志望しました。次に、地区町村ではなく東京都を志望した理由ですが、東京都が現在実施している子どもスマイルムーブメントなどの規模が大きく、さまざまな主体を巻き込んだ取り組みを実行できるという点に強く惹かれました。子どもの成長は教育や福祉に限らず、幅広い分野が連携して支えていかなければならず、さまざまな行政主体や民間と連携したダイナミックな取り組みが実行できるという点が、東京都にしかない魅力であると感じました。

面接官A：東京都の魅力ってなんだと思いますか？

私：はい、様々な分野・局があるという点がとても魅力的だと思います。都庁の職員として幅広い分野の仕事に携わることで、自分自身の視野を広げることにも繋がると考えております。

面接官A：では、〇〇さんはプレッシャーに強い方だと思いますか？

私：あまり強い方ではないと思います。

面接官A：プレッシャーがある時にどうやって乗り越えていますか？

私：はい、私は自分の将来の姿を想像するようにしています。

面接官A：では今日はどんな姿を想像しましたか？

私：今日は東京都の職員として、子供達のために働いている姿を想像しました。

面接官A：教育分野を希望とのことですが、自分の希望していない部署に派遣されたらどうしますか？

私：東京都の魅力は幅広い分野の仕事に携われることだと思います。そのため、自分の希望した分野ではないとしても、その部署に派遣された意味を見出し、自分なりの目標を持って仕事に取り組みたいと思います。

面接官A：では、最後の質問です。今日のグループワークで学んだことは何かありますか？

私：はい、地震等の災害は事前や事後の対策・対応によって被害者を大幅に減らすことができるため、常に緊張感を持って最優先事項として取り組むべきだと感じました。また、災害対策は住民の理解・協力あってのものであるため、少しでも多くの住民の理解と協力が得られるような取り組みにも力を入れる必要があると感じました。(話し合った内容についてなのか、話し合い自体のことなのか分からずこのような返答になってしまいました)

(2)面接を終えての印象

インターネットで調べたところ、「都庁の面接は深掘りが多い」「意地悪な質問が多い」という情報があり最初はとても緊張しましたが、個人的には2次・3次とも穏やかな雰囲気で行われました（優しい面接官に当たっただけかもしれません）。確かに深掘りは多くありましたが、意地悪な質問などは特になかったです。また、面接官の方が私の目を見て聞いてくださったのでとても話しやすかったです。個人的には、2次、3次とも初日で一番最初のグループだったため、「前の人と比べられないかな…？」などを気にすることなくできたのが良かったのかもしれない。

(3) 模擬面接と比べて実際はどうだったか

模擬面接の内容と対して変わらなかったように感じます。ですが、面接シートに書いてある質問はほとんど問われず、そこから派生した内容が多かったです。模擬面接では2次のプレゼンも聞いていただきましたが、個人的にはアガルトの模擬面接の方が厳しい質問をされたように感じました（笑）。

ですが、厳しい視点から質問していただけたことで、より良い内容になったことは間違い無いと思います。また、「厳しい質問が来る」と覚悟していたからこそ、当日は焦ることなく冷静に回答できました。

(4) 他受験生の印象

交流する機会は3次のグループワークだけでしたが、皆様優秀だと感じました。話す内容も高度で理解できない部分もありました。真面目・どちらかというとうるさい人が多いという印象です。

(5) 受験生へのアドバイス

場所は分かりやすかったのですが、私は不安だったため前日に試験会場まで行きました。また、私の家から離れた場所+台風の予報だったため、前泊して臨みました。少し大袈裟な気もしますが、「万が一に備えて前泊してきました」と面接で話すことで、「しっかりと準備をして臨むことができる人」という印象づけにも繋がると思います。

また、2次のプレゼンですが、当日メモを見ながら話してもいいということを知りました。なるべく見ないほうが良いともいますが、緊張で頭が真っ白になってしまう人もいると思うので、あらかじめ本番用のメモを作成しておくのもいいかもしれません。（来年度以降も同じルールかはわかりませんが…）

最後に、今年はマスクを外していいとのことだったので、女性の方はあらかじめリップなどを塗っておくといいと思います！（直前だと間に合わないことがあるので、控え室から別室に移動した際に塗るのがちょうどいいと思います）

大阪府庁

(1)面接の概要・内容

面接日：2021年7月2日（金）

面接官（何名いたか等）：3人（男性1人、女性2人）

面接時間：10：35～10：50

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：小さい会議室、面接官との間は2m近く離れており、アクリル板が設置されていました。

私：失礼いたします。

面接官A：受験番号と名前お願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

面接官A：おかけになってください。

面接官A：緊張されていますか？

私：はい、とても緊張しています。

面接官A：大阪府庁に来られたことはありますか？

私：はい、本庁を見に行ったことがあります。

面接官A：そうですか、面接では〇〇さんのお人柄だったりを見ていきたいので、リラックスして、いつも通りの〇〇さんを見せてください。質問は基本的に私の方からさせていただきます。

私：はい、よろしくお願いいたします。

面接官A：エントリースートを拝見させていただいた中から、気になったところを質問させていただきます。取り組んでみたい仕事として「地域格差の是正」をあげていらっしゃるようですが、なぜそこに興味をもたれたのでしょうか？

私：はい、私は昨年の夏からボランティア活動として、豊中市で高齢者支援の活動をさせていただいています。そこで、いろんな高齢者の方々のお話を聞く機会がありました。その中で、豊中市内においても、高齢化が加速し、高齢者が多い地域も増えていったという話を聞き、そういった問題をもっと調べていきたいと思ったことから、興味を持ちました。

面接官A：高齢者問題に興味を持ったということですのでよろしいですか？

私：先ほどの話をきっかけに、大阪府においても高齢化率の低い自治体がある

一方で、高齢化が深刻化している現状を知り、行政の立場としてこの問題を何とかしたいと考えるようになりました。

面接官A：なるほど、今の話を聞いていると、府庁よりも市民に近い市役所の方が向いていると思ったのですが、なぜ市役所ではなく、府庁を志望しているのですか？

私：はい、確かに市役所の方がより地域に密着した形でこの問題に取り組むことができると思います。しかし私は、一つの地域（例えば豊中市）だけではなく、大阪府全体の底上げをしていきたいと考えていて、あらゆる地域で府民が活躍し、高齢化が続く社会においても発展できる地域を作りたいと考えているので、市役所ではなく府庁を志望しました。

面接官A：なるほど、分かりました。

面接官A：質問を返させていただきます。〇〇さんが集団の中で発揮している自分の強みなどをお話してください。

私：はい、私は状況に応じて柔軟な対応ができる力を持っています。先ほどお話しした高齢者支援のボランティア活動での話です。今年度の活動内容を決める会議がありました。今年度からは新しい取り組みを始めようと決めており、アイデアを出し合いながら議論を進めていく予定でしたが、なかなか意見が出ない状況が30分ほど続き、議論が停滞していました。

そこで私は、まず意見を出しやすい環境を作ることが大事だと考え、「駅前の清掃活動はどうか」など、とにかく自分が最初に意見を出すようにアイデアを振り絞りました。

結果、他の人からも意見が出るようになり、活動計画をまとめることができました。このように集団の中で足りないなと思ったところに柔軟に対応できる力を持っています。

面接官A：そうですか。〇〇さんは集団の中ではリーダー的なポジションが多いのでしょうか？

私：はい、先ほどの話では自分が先頭に立って議論を進めていきましたが、集団ごとにリーダーがいいのか、サポート役の方がいいのかを考え、適したポジションについています。

面接官A：なるほど、それで柔軟な対応力があるということですね。わかりました。

面接官A：これから大阪府庁で働くにおいて、集団の中で意見が合わなかったりする場面あると思いますが、〇〇さんならどうしますか？

私：はい、これからの仕事で何かしらの企画であったり、議論をする場面では、

自分の意見と上司の意見が合わないことや、集団で意見がまとまらなかったりすることがあると思います。その時は、まだ自分は新人職員の身ですので、しっかりと自分の主張はしながらも、最終的には経験の豊富な上司の判断に従うつもりです。

面接官A：なるほど、ありがとうございます。

面接官A：最後に30秒間で〇〇さんの自己PRをお聞かせください。

私：はい、私はスーパーマーケットのアルバイトで培ってきた「柔軟な対応力」を活かし、大阪府に貢献します。これからの大阪府の仕事においては、様々な施策を打ち出す中で、いろんな課題が見えてくるとと思います。そこで、自分の強みを活かし、様々な立場の人と協力しながら意見を取り入れ、課題解決に努めていきたいと考えています。そして大阪府の発展に全力で励みたいと考えています。以上です。

面接官A：ありがとうございました。これで面接を終了します。

自分：本日はありがとうございました。失礼します。

(2)面接を終えての印象

面接官の方は50代くらいの物腰やわらかな方で、こちらの話をよく聞いてくれてるんだなという印象を受けました。面接を受ける前に自分が考えていたよりも面接自体は穏やかな雰囲気でした。

終わった瞬間ホッとしたのと同時に、緊張しすぎて思うように回答できない場面もあったと反省しました。

ただ、詰まりながらではあったものの、自分の考えや言いたいことなどはしっかりと面接官に伝わった実感はあり、手応えはありました。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

模擬面接ではかなり圧迫気味だったのですが、実際の面接は穏やかな雰囲気でした。しかし模擬面接同様、浅い回答に対しては突っ込んでくる姿勢でした（こちらの答えに対して「それはなぜ？」と突っ込んでくる感じ）。

2次面接も最終面接も3人の面接官で、内2人が聞き役（特に質問をしない）でしたが、視線が鋭く、こちらの挙動などを伺っている様子でした。そこは模擬面接の時とは大きく違うポイントだったのではないかと思います。

(4)受験生の印象

面接は基本的に1人で受験するので、他の受験生の印象等は掴みづらかったのですが、控室などでは書籍を読んでいたりと、面接対策用のシート（回答集）を読んで面接の順番を静かに待っていました。

受験生の雰囲気は、真面目そうな方々が大多数でした。

自分もですが、緊張していそうな方が多く見受けられ、「自分だけが緊張しているんじゃない」と安心できた覚えがあります。なので、そこまで他の受験生を気にすることなく、自分のことに集中しながら控室で待機していました。

(5)受験生へのアドバイス

試験会場は基本的に咲洲庁舎というところで、試験会場まではそれなりの距離があります。なので、余裕を持って1時間前には到着するようにしました。早すぎるとは思いますが、自分も一度試験に遅れかけたことがあるので、用心してそれぐらいに到着することをお勧めします（早く着けばリラックスできるし、面接対策もできる）。

大学卒の試験は夏ごろですので、かなり暑いです。空調は効いていますが、クールビズで行かないと汗まみれになります。

前の項目でも書きましたが、面接試験は自分だけでなく、他の受験生も緊張しています。なので、焦らずリラックスして面接までの時間を過ごしましょう。あまり周りを意識すると焦るだけです。

面接官は人によりますが、自分の場合は穏やかな雰囲気の方で、話しやすかったです。面接官を「敵」と思わず、「自分のことをこの人に知ってもらおう」という意識で臨みましょう。面接官の方はしっかりと話を聞いてくれますので安心して話してください。

埼玉県庁

(1)面接の概要・内容

1次面接

面接日：2023年8月1日（火）

面接官（何名いたか等）：2名

面接時間：9：40～9：55（15分間）

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：1部屋に4つブースがあり、指定された自分のブースで個別面接が行われます。ブースに仕切りはありませんが、部屋が大きいため、他の受験生の声はさほど気になりませんでした。面接官との距離は2mくらいでした。

控室で事前に面接についての説明があり、ブースの説明と、荷物は自分の椅子の横に置くように指示がありました。その後、職員の案内で面接会場（今回は向かい側の部屋でした）へ行き、職員が部屋の扉を開け、受験生は順番に部屋に入って自分のブースへ向かいます。

私：失礼いたします。

面接官A：受験番号と名前お願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくをお願いいたします。

面接官A：着席してください。

私：失礼いたします。

面接官A：志望動機をお願いします。

私：これまで〇〇県で水道事業に携わってまいりましたが、これからは地元である埼玉県でもっと視野を広げ、幅広い分野から人々の暮らしに携わってきたいと思ったため、県庁を志望いたしました。

面接官A：幅広い業務に携わりたいと思ったきっかけはなんですか。

私：仕事と子育てに悩む姉や、自動車の免許を返納した後の暮らしについて不安を抱える祖父母を見て、こうした問題に対してもっと主体的に携わっていきたいと思うようになりました。

面接官A：県庁でやりたいことは何ですか。

私：埼玉県の豊かな自然という特色を活かしたまちづくりを進めていくために、環境保全の活動を推進していきたいと考えています。

面接官A：地域の特性を活かしたまちづくりをどうしたら達成できると思いますか

すか。

私：地域それぞれの魅力を存分に活かせるように、自治体や各種団体、企業との協力や支援、あらゆる主体をつなげる橋渡しとしての役割を果たしていくことで達成していきたいと考えています。

面接官A：苦手な人はどんな人ですか。

私：言った意見に対して、否定ばかりする人です。自分自身が傷つくということもありますが、否定ばかりでは、問題を解決できないと思うからです。

面接官A：そういう人に対してはどのように対応しますか。

私：否定されたら、その理由を聞いたり、ほかに良い案はありますか？と逆に質問することで案を引き出すようにしていました。

面接官A：そのような対応をして人間関係は壊れませんでしたか。

私：日頃からコミュニケーションをとるように心掛けていたので、そのことで関係が壊れるということはありませんでした。

面接官A：人間関係で困った経験はありますか。

私：人間関係で揉めたりすることはなかったのですが、異動先の職場の風通しが悪く、完全に個々で仕事を抱えているような状況で、非常に苦勞した経験はあります。

面接官A：その時はどうしたのですか。

私：先輩に尋ねても、前任者がどのようにやっていたのかわからないと言われてしまったので、自分でいろいろと調べたり勉強しながらなんとか仕事をこなしていました。しかし、私が苦勞している姿を見て、次第に先輩が手伝ってくれるようになりました。

面接官A：苦勞している姿を見て、手伝ってくれたのですか。

私：私自身も、先輩方が忙しいときには、何かお手伝いできることはありますか、と尋ねたり、日頃からコミュニケーションをとるよう心掛けていたことが大きかったのかもしれない。

面接官A：3月までお勤めだったということですが、なぜ前職を辞めたのですか。

私：地元が埼玉県ということもあり、いずれは埼玉県に戻り、貢献したいという思いを持ち続けていました。結婚を機に今後の暮らしを考えたときに、埼玉県で暮らしたい、ここで働き続けたいと思ったため、退職し、埼玉県に戻ってまいりました。

面接官A：前職を辞めるとき、職場の人からは何と言われましたか。

私：いつでも帰っておいでと言われました。

面接官A：(少し笑い) 帰れる場所があるんですね。私からは以上です。

面接官B：続いて私の方から質問です。行政職と技術職の違いをどう思いますか。

私：私はこれまで技術職として働いてきましたが、これからは子育て支援や福祉など、技術職ではできない仕事にも挑戦していきたいと思っています。

面接官A：わかりました。それでは、これで面接を終了します。

私：本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。失礼いたします。

2次面接

面接日：2023年8月1日(火)

受験先：埼玉県庁

面接官(何名いたか等)：3名

面接時間：10:30~11:00

面接を行った場所について(大体の部屋の大きさ、面接官との距離等)：部屋は普通の会議室の大きさで、面接官との距離は3mくらいでした。荷物は部屋に入ってすぐの机の上に置くように指示がありました。

私：失礼いたします。

面接官A：受験番号と名前をお願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくをお願いいたします。

面接官A：着席してください。

私：失礼いたします。

面接官A：志望動機をお願いします。

私：これまで神奈川県で水道事業に携わってまいりましたが、これからは地元である埼玉県でもっと視野を広げ、幅広い分野から人々の暮らしに携わってきたいと思ったため、県庁を志望いたしました。

面接官A：県庁でやりたいことは何ですか。

私：埼玉県の豊かな自然という特色を活かしたまちづくりを進めていくためにも、環境保全の活動を推進していきたいと考えています。

面接官A：なぜ前職に勤めたのですか。その時の就活の軸を教えてください。

私：当時は2つの軸を持って就活をしていました。1つは、大学で学んだ専門性を活かせる仕事がしたいということ、もう1つは地域に根差した公益的な仕事がしたいということです。そこで、地方公務員を中心に就活を行い、

前職は2つの軸をどちらも満たす団体であったため、就職いたしました。

面接官A：当時、県庁は受けなかったのですか。

私：受験しましたが、その時はご縁がありませんでした。

面接官A：3月で退職しているけど、リスクありますよね。なんで辞めたのですか？

私：仕事を辞めると決めてすぐ、民間企業向けの就職活動を行っていました。しかし、やはり公務員の仕事を諦めきれず転職活動を辞めて、公務員試験を受けることにしました。働きながらの受験だと、中途半端になってしまうと思い、家族も背中を押してくれたので…（もごもご）。

面接官A：つまり働きながら受験するのは厳しかったということですよね。

私：はい、そうです。

面接官B：埼玉県の政策でやりたいことはありますか。

私：SAITAMA リバーサポーターズプロジェクトに携わりたいです。

面接官B：埼玉県の政策でもっとこうしてほしいと思うところはありますか。

私：子育て支援です。特に学童保育に関しては、朝の時間帯や放課後6時以降の時間帯にも、安心して子供を預けられるように支援をし、子育て中の親がキャリアをあきらめることなく、仕事と育児を両立することができる環境を整えていただけたらと思います。

面接官B：どのように実現していけると考えますか。

私：教員の過重労働などの問題もありますので、専門職でなくても、専門職の方を中心として足りないところを地域の方々で補うなど柔軟なやり方を考えていけたらいいのではないかと思います。

面接官B：最近気になるニュースはありますか。

私：気になったニュースは、先月〇〇県で小学生の女の子3人が川で溺れてしまったという事故です。これまで川に関わる仕事をしていて、これからも環境教育を通して、みなさんに自然に触れてもらいたいと思っていましたため、このニュースが目にとまりました。

面接官B：痛ましい事件ですね。今後県としてどう改善していきたいか教えてください。

私：川遊びは身近な自然に触れられる貴重な機会でもあります。ですので、環境教育を通して、自然の良さだけでなく、危険があるということ、自分の身の守り方についても同時に伝えていきたいと思っています。

面接官C：これまで頑張ったことを具体的に教えてください。

私：これまで周りとのコミュニケーションを図ることを意識して働いてきまし

た。自分が新社会人として働き始めたとき、先輩方に仕事を教えてもらったり、相談を開いてもらったりすることで、仕事を進めていくことができたからです。私もみんなが相談しやすくして仕事がしやすい雰囲気を作っていきたいと思い、「相談しやすい事務局」を目指して行動していました。

面接官C：事務局とはどのようなものですか。

私：水質管理部門の事務局として、水質検査計画や内部監査、年報作成など複数の課にまたがる仕事を中心となって進めていました。また、大きな仕事としては、水道 GLP という、水質検査結果の信頼性を確保する認定制度があるのですが、その規範にのっとって業務が行われているかを管理、指導するという仕事をしていました。

面接官C：管理、指導するとのことですが、他の団体を指導するのですか。

私：いいえ。団体内の職員を指導します。

面接官C：相談しやすい雰囲気づくりでどのようなことを達成しましたか。

私：年報の作成を主担当として任された際、1年かけて完成させていた年報を3か月前倒して完成させることができました。これまで、各部署に期限を提示したうえで作業を依頼していましたが、部署ごとに忙しい時期が違ったりすることもあり、期限内にすべての回答を得ることができませんでした。そのため、部署ごとに忙しい時期を外して作業を依頼するようになり、こまめに作業の進捗状況の確認を行い、相談を受けるようにした結果、3か月前倒しでの完成を達成することができました。

面接官C：長所と短所を教えてください。

私：長所は、主体的に考えて行動できるところです。仕事をスムーズに進めていくためにどうしたらよいかを考え、相談しやすい雰囲気づくりに取り組んだり、浄水場に勤務していた時は、自分に足りない知識や経験を身に付けるため、積極的に現場を経験したり、図面を片手に施設内を歩いて回ったりして、施設の構造をいち早く覚えようと行動していました。一方で、短所は、細かい部分が気になり、こだわりすぎてしまうところです。

面接官C：その短所によって失敗した経験はありましたか。

私：資料作成の際は、期日までには必ず間に合わせていましたが、その分残業をすることもありました。スピード感をもって取り組んでいかなければならないことも多いため、一人であれこれ悩むのではなく、上司や先輩に確認しながらアドバイスをもらいながら進めていくことを心掛けていました。

面接官A：人間関係で困った経験はありますか。

私：先輩とのコミュニケーション不足から、一人で仕事を抱え込んでしまう時期がありました。先輩に相談した際、そっけない態度をとられてしまったように感じ、なんとなく相談しづらくなっていました。

面接官A：どう改善しましたか。

私：一人では当然仕事もスムーズに進まないし、やはり働く上でコミュニケーションは大事だと感じ、避けるのはやめて、自分から意識的にコミュニケーションを図るよう心掛けました。すると、先輩も私のことを気にかけてくださるようになり、仕事も捗るようになりました。

面接官A：そこから学んだことはありますか。

私：相手と向き合わず逃げていた自分を反省し、それ以降はしっかりと相手と向き合い、コミュニケーションを大切にしながら働いてまいりました。

面接官A：失敗した経験を教えてください。

私：失敗した経験は、所内の備品の発注業務を担当していたときに、必要なものを必要な時までには納品することができず、結果的に、仕事の予定を延期させてしまった経験です。

面接官A：周りへの影響はどうでしたか。

私：幸いにも課内の職員しか関わらないプロジェクトであったため、被害や影響はそれほど大きくなく済みましたが、先輩方には非常に迷惑をかけてしまいました。

面接官A：その時の相手の反応はどうでしたか。

私：次からは気をつけてね、と言われました。

面接官A：マイナスのことばかりを聞いてしまったので、今度は自分のスキルなどをアピールしてください。

私：私の強みは、業務が円滑に進むよう、主体的に周囲に働きかけることができることです。前職では、係の違う職員とも積極的に会話する機会を作り、気軽に話せる関係を築いていくことで、何かトラブルがあった際にも、スムーズな情報共有のもと迅速に対応することができました。こうした周囲との連携と主体的に行動する姿勢を御庁でも発揮し、円滑な業務の遂行に貢献してまいります。

面接官A：併願先とその後のプランを教えてください。

私：市役所を一か所併願しています。仮にどちらも落ちてしまった場合には、民間企業への就職を考えています。そのうえで、地域のためにできることを考え、実施していきたいと思っています。

面接官A：短所のところで残業してしまうこともあったとのことだが、健康状

態はどうですか。

私：至って健康です。

面接官A：わかりました。それでは、これで面接を終了します。

私：本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。失礼いたします。

(2)面接を終えての印象

全体を通して、話しやすい雰囲気でした。成功体験よりも、失敗経験や人間関係でのトラブルをどう乗り越えたかというエピソードを問われる質問が多かったように思います。特に、人間関係で困ったことについては、1回目と2回目の両方で聞かれました。

(1回目の面接)

面接官は、一人は40代くらいのやわらかい雰囲気の方で、もう一人は20代から30代くらいの若い方でした。時折微笑んでくださり、受験生が話しやすいよう和やかな雰囲気を作ってくださいました。面接時間が短いため、質問数は少ないですが、1つの質問に対して、ある程度深掘りをされました。

(2回目の面接)

1回目と異なり、微笑んでくれる面接官はいませんでした。和やかな雰囲気とはいきませんが、圧迫面接ということもありませんでした。面接時間が30分と長いため、1つの質問に対してかなり深掘りされるように感じました。しかし、面接カードに書いた志望動機や、やりたいことについては深掘りされませんでした。

途中、端的に答えられず面接官に指摘される場面がありました。一瞬場がピリつきましたが、気を立て直し、その後も笑顔で答えることを意識したことで、次第に場の雰囲気も和らいでいき、ホッとしました。30分がとても長く感じました。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

模擬面接を通して、どのような質問がくるのか、どう深掘りされるのかを予行演習できたので、本番は落ち着いて受け答えをすることができました。模擬面接で聞かれた質問と同じような質問も多かったので、模擬面接を複数回受けていてよかったと思いました。

模擬面接では緊張し、答えに詰まることもありましたが、本番では意外と緊張せず、すべての面接官に目配せできるくらいの余裕もありました。自分自身にび

つくりです。面接を楽しもうと、自分に言い聞かせていたのが効いたのかもしれませんが。または、本番を前にして、もうどうとでもなれ！という気持ちだったのかもしれませんが。

(4)他受験生の印象

控室では、受験生同士の会話はなく、みんな本番に向けてノートや面接カードなどを確認していました。面接の案内書類に、服装はクールビズでよいとの記載がありましたが、多くの受験生がジャケットを持参していました。面接本番では、ほとんどの受験生がジャケットを脱いでワイシャツで受けていたように思います。私は、半袖のワイシャツを着て面接に臨みましたが、他に半袖の受験生は一人しか見かけませんでした。少し気まずい気持ちになりましたが、面接において、半袖であることがマイナスに働いたと感じることはなかったように思います。

(5)受験生へのアドバイス

夏の面接は会場に着くまでに汗をかいてしまいますので、クールビズでよいと言われたら、クールビズの装いで行くことをお勧めします。女性の場合、汗でメイクや髪形も崩れてしまうおそれもありますので。室内は空調が効いていましたが、半袖でちょうどよいと感じたので、ジャケットを羽織っていると少々暑いかもかもしれません。

会場の埼玉会館は、場所はわかりやすいのですが、面接会場の会議室へ向かうエレベーターの場所がわかりづらかったです。私は入口にいらした警備員さんに場所を尋ねました。

特別区（港区）

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年10月23日（月）

面接官（何名いたか等）：2名（2人とも男性。Aが40過ぎ、Bが30代前半の気がする）

面接時間：13：25～13：55（30分間）

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：割と広めの会議室、2メートルほど。

私：（ノックして）失礼いたします。よろしくお願ひいたします。

面接官A：お座りください。

私：失礼いたします。

面接官A：名前をお願いいたします。

私：〇〇〇と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

面接官A：住所を教えてくださいませんか。

私：〇〇です。

面接官A：現在は一人暮らしですか。それともご実家で。

私：今は実家に住んでいます。

面接官A：なら通える距離ですね。

私：はい。

面接官A：まずは私からいくつか質問させてください。アルバイトは何をされていますか。

私：100円ショップで働いています。

面接官A：働いていて、こうしたらいいのになと思うところは何かありますか。

私：ただのアルバイトなのであまり口出しはしませんが、もう少し従業員の数を増やした方がいいとは思っています。かなり人手が足りていないので、忙しいことが多いからです。

面接官A：なるほど。実際、行政の場でも人手は足りていません。でも数は増やさないです。忙しいのは良くないですか。

私：いえ、忙しいことはいいことだと思います。しっかりと報酬をもらっている以上働くのは当然ですし、やりがいも感じると思っています。

面接官A：では、本来の仕事以外にも、「〇〇さんこれやって」と頼まれた時は

どうしますか。

私：しっかりとこなします。逆に私が他の人をお願いをすることもあると思います。それぞれ得意分野もあると思いますし、持ちつ持たれつではないですが、分業し連携して仕事をするのがいいと思います。

面接官A：ありがとうございます。ひとまず私からの質問は以上です。

面接官B：では私からお聞きします。趣味は何ですか。

私：イラスト制作です。あと最近ジムに通いはじめて、筋トレも趣味になりつつあります。

面接官B：：ジム！いいですね。公務員を目指し始めたきっかけは何ですか。

私：母から、「公務員も向いているんじゃない」と言われたことです。

面接官B：お母様は〇〇さんのどのような面を見てそうおっしゃったと思いますか。

私：真面目にコツコツ物事をこなすところでしょうか。

面接官B：どういったことからそのような印象を持ったのでしょうか。

私：学校の定期試験の勉強以外では正直あまりないのですが、先生方や周りの大人たちからの評判などでしょうか。（苦し紛れに回答しました）

面接官B：なるほど…質問を変えますね。港区を志望先として提出はされていませんが、第一～第三希望の区を教えてくださいませんか。

私：はい、〇〇区、△△区、□□区です。

面接官B：なぜその区を選んだのですか。

私：△△区は住んでいるからということもあるのですが、大学に入った頃に〇〇区に対して、幼稚な理由にはなりますが、「なんかカッコいい」と思ったからです。あと、〇〇仲通りの雰囲気が好きです。

面接官B：港区から呼ばれてどう思いましたか。

私：正直「なんで港区!？」という驚きが一番でした。人気の区というイメージだったので、まさか第二提示で声をかけていただけたとは思っていなかったからです。

面接官B：港区の施策で何か興味があるものはありますか。

私：チャレンジコミュニティ大学です。（何かメモしているので）もう一つ言ってもいいですか。

面接官B：ああ、もちろんどうぞ。

私：これはつい最近ニュースになっていたからというのはあるのですが、夏休み中の子どもたちが警察と一緒に高齢者の方の家を回り、詐欺などの警戒を呼び掛けるパトロールをしたことです。携わりたい仕事が高齢者支援関

係なので、興味を持ちました。

面接官B：ありがとうございます。私からは以上です。

面接官A：ではもう一度私から質問させていただきますね。先ほどやりたい仕事で高齢者支援のことはおっしゃっていましたが、なぜそれをやりたいのですか。

私：はい。現在、祖母と半同居中なのですが、高齢なこともあり心身ともに不安定な面がみられるようになってきました。そのケアを母と伯母が主に担っており、私が手伝うことや行政の支援も利用させてもらってはいるものの、それでもなお細部にわたって迅速に対応してほしいと思うことがあるそうです。このように、高齢者と一緒に暮らす家族や高齢者世帯の方の悩みを少しでも解消するサポートをしたいと、特別区職員を目指し始めたころから考えているからです。

面接官A：ありがとうございます。区の仕事は高齢者支援だけではないですが、他にどんな課や業務があるかご存じですか。

私：はい、えー戸籍など住民の情報を扱う課や総務課、選挙管理、子育て支援、今言った高齢者などの福祉課、土木などといったところでしょうか…。

面接官A：ありがとうございます。少し質問を変えますね。今、100万円もらったらどうしますか。

私：そうですね…半分はお世話になっている人や家族・友人と食事をする分に使って、もう半分は貯金ですかね。

面接官A：なるほど。皆さんそう言いますよ（笑）。ではすぐに使わないと没収になる場合はどうですか。

私：それなら貯金分を自分のために使います。

面接官A：何に使いますか。

私：洋服が好きなので、服を買いたいです。

面接官A：ありがとうございます。もう少しお聞きしたいところですが、そろそろ時間ですので面接は以上となります。どうですか、港区のことを好きになれそうですか。

私：はい、それはもちろん。正直なところ、港区については東京タワーがあり、高級住宅街があり、弟の通う中学校があるといった程度の認識しかありませんでした。ですが、街歩きをしてみて、特に白金高輪は地元の〇〇に似た雰囲気がある街だなど思い親近感を持たせてくれました。今では、港区で働きたいと思っています。本日はお忙しい中面接をしていただき、ありがとうございました。

面接官A：はい、ではお帰りいただいて結構ですよ。

私：ありがとうございます。(ドアの前で)失礼いたします。

(2)面接を終えての印象

全体として自分のことについて聞かれることが多かったと思います。区の施策について割と対策をしていったので拍子抜けした感じですが、答えられない質問は無かったので一安心でした。上記の面接官Bの方がほとんどの時間真顔だったので、少し「いい回答」ができていないのではと面接の間心配になりましたが、良い結果を迎えられたので良かったと思っています。

第一志望の千代田区の面接の時は、①興味ある施策を述べた際に墓穴を掘ったこと、②3回ほど「勉強不足ですみません」と言うしかなかったことがあったので見事に落ちましたが、港区の時はそれがなかったので、しっかりと答えることができれば落とされることは少ないのかなと思います。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

区面接の直前に家族がコロナに罹り私自身がホテル暮らしになるやらなにやらでバタバタしており、オンラインの模擬面接を活用できなかったため、大学の就職支援センターでやってもらった模擬面接のことになってしまいますが、練習の時に聞かれたことと大差ないと思います。なんならそこまで突っ込んだ質問がなかったのでありがたかったです。

ただ、やはり雰囲気などは違いますし、模擬面接の時は一対一ですが本番は多対一なので、気後れしないように堂々とすることは意識しました。

(4)他受験生の印象

私と同じ時間に呼ばれていたのが他に1人だけだったので、正直あまり書くことが無いです。おとなしそうな男性でしたが、控室で待っている時も私と同じように対策したことをまとめてあるであろうプリントを眺めていました。たまたま目が合った瞬間があったのでお互いに会釈して「頑張りましょう」とは話しましたが、それ以外は会話も特にしませんでした。

余談となりますが、面接が終わって戻ってきた時、次の時間帯の2人が待っていて、おそらく2人とも前髪を上げていました。私もきちんと上げて固めていっ

たのですが、上げた方が印象は良いと思います。

(5)受験生へのアドバイス

自分のやりたいこと・その理由と、興味のある施策やなぜ興味があるのかという2点に一貫性があれば、主張として納得されるものになると思います。具体的なエピソードがあるなら完璧です。

あとは特別区や市役所を受けるのであればその地域の街歩きは絶対にすべきです。実際にその場所を訪れなければ分からない雰囲気があります。私も白金高輪エリアを歩いて本当に良かったと思っています。観光にもなりますし、楽しんで歩くのがおすすめです。

面接を受けるうえで大事なものは、自分を売り込むことです。もちろんマナーや礼儀は大事なことで横柄な態度になるのは絶対にNGですが、「落とされたらこんなに優秀な自分を逃してしまったその組織は大きなミスをしたな」くらいの自己肯定感をもって、堂々と面接を受けましょう。自然と声もはっきりすると思うので印象は確実にいいですよ。

緊張から準備したことが頭から一瞬で抜けることもあります。ですが、時間くださいと言えば少しは待ってくれますし、一生懸命自分の想いを伝えれば必ず伝わります。自分を信じて頑張ってください。応援しています。

市役所、国立大学法人等

東京工業大学

(1)面接の概要・内容

面接日：2022年8月10日（水）

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：16：30～17：10

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：大きさは小会議室程度、面接官との距離は3m程度。

私：失礼いたします。

面接官A：では荷物を椅子の上において着席してください。

私：はい。失礼いたします。

面接官A：どうぞ。

（着席）

面接官A：では面接を始めさせていただきます。よろしくお願いします。

私：よろしくお願いいたします。

面接官A：ではマスクを外してお名前をお願いします。

私：〇〇〇〇と申します。本日はよろしくお願いいたします。

面接官A：お願いします。ではマスクを着けてください。自宅が長崎とのことですがいつから東京に来られてたんですか？

私：昨日から東京に来ておりました。

面接官A：そうなんですね。東工大に来たのは前回の面接含めて2回目ですか？

私：はい。そうです。

面接官A：そうですね。母校と比べて東工大の雰囲気はhowですか？

私：はい。東京にありながらもキャンパス内は緑が豊かでとても落ち着いた雰囲気を感じております。学生も教員も落ち着いた環境で活動ができるのはとても魅力に思います。

面接官A：そうですか。ありがとうございます。では、アイスブレイクはこれ

くらいにしまして〇〇さんのことを聞いていこうと思います。まず、東工大の事務職員を志望した理由を聞かせてください。

私：はい。東京工業大学の事務職員を志望した理由は、私がこれまでに所属してきた組織の中で先頭に立ってみんなを引っ張ると言うよりは全体を見てサポートする役割が多く、学生や教員の方が活動しやすい環境づくりをしたかったことです。日本一の理工系総合大学である東京工業大学で数十年後に日本や世界の常識を変えるような人材の育成や研究の一助になり、広く社会貢献がしたいと思い、志望しました。

面接官A：ありがとうございます。数ある国立大学の中でもなぜ東工大にされたのでしょうか？

私：はい。東京工業大学を志望したきっかけは、大学受験の際に、東京工業大学を志望していたことがきっかけです。力及ばず違う学校に入学しましたが、憧れていた学校に職員として働けたらやりがいを持って働けると思い志望しました。また、説明会などでも新しいことに挑戦できるような環境があるということを開き、魅力に思い志望しました。

面接官A：ありがとうございます。では、他の面接官からも聞かせていただきます。

私：はい。

面接官B：よろしくお願ひします。面接カードに大学卒業以降の経歴が書いてありませんでしたが、お聞きしてもいいですか？

私：はい。大学卒業後は、新卒で銀行員として勤務していました。その後、2020年12月に退職し、公務員試験を受験しましたが、力及ばずどこにも内定が頂けなかったので、9月から3月まで携帯販売の接客のアルバイトをして、その後公務員試験を受験しました。

面接官B：そうだったんですね。ありがとうございます。前職の業務はどういうことをしていたんですか？

私：前職では、主に融資の事務をして、少しだけ営業もしておりました。具体的には住宅ローンに関する融資を行っており、窓口に来たお客様対応などもしておりました。

面接官B：大学職員としてどのような業務をしたいですか？

私：はい。私は、研究推進や学務、安全管理の業務を行いたいと思っています。学生や教員の方と同じ立場に立って、サポートをして活動しやすいような環境を作りたいと思っています。

面接官B：ありがとうございます。ではまた別の面接官からお話を聞かせてい

ただきたいと思います。

面接官C：では私から。趣味の欄にスポーツとありますがどんなことをされるんですか？

私：小さい頃からいろいろなスポーツを行ってきており、球技がとても好きで行っております。最近あまりしていないのですが、ランニングをしています。また、2月から犬を飼い始めたので一緒に散歩をすることもありません。

面接官C：そうなんですね。とてもいいですね。料理も得意なんですか？

私：はい。得意です。現在は実家に住んでおり、両親と姉がいるのですが、みんな働いておりますので、私が夕食を作っています。

面接官C：そうなんですか。そんな料理をすることが多いですか？

私：レシピを調べたりして作ったことがない料理を作ることが多いです。

面接官：そうですか。難しいと感じたことはないですか？

私：小さい頃から料理はしていて、とても得意なので難しいと感じることはありません。

面接官：すごいですね。家族の方も助かっているでしょうね。家族や友人からはどんな人と言われることが多いですか？

私：はい。友人などからはオンとオフの切り替えがはっきりしているといわれることが多いです。大学時代の部活動などの時にはしっかりしているけど、私生活はだらしないといわれます。

面接官C：だらしないっていうのはどんな感じですか？

私：授業の無いときはずっと寝ていたりなどですね。

面接官C：でもそれは弱点というよりはむしろ良いことでもありますよね。

私：私もそう感じています。やるときとそれ以外の時をしっかりと区別していれば問題ないと思っています。

面接官C：そうですよね。では逆に弱みは何だと思えますか？

私：私の弱みは、人の意見を聞きすぎることだと思っています。会議や話し合いの時などに人の意見を聞きすぎて自分の意見を曲げてしまうことがあります。

面接官C：自己主張ができないということですかね。

私：そうですね。対策としては、人の意見を聞く前にしっかりと自分の意見を言うことで主張するようにしています。

面接官C：そうなんですね。大学時代には情報工学を専攻していたとありますが、大学職員としてどんな部分で生かせそうですか？

私：授業でExcelの授業があり、大学職員の業務上でもExcelやWordなどは必ず使うと思いますので、その時に生かせると思っています。実際に前職でもお客様の情報や売り上げの管理をExcelで行っており、最初はそのExcelのシートが使いにくかったのですが、私関数を用いて作り直し、効率的に管理することができるようになりました。

面接官C：いいですね。ではまた最初の面接官から質問させていただきます。

面接官A：前職ではどんなことを意識して業務を行っていましたか？

私：はい。前職ではお客様の立場に立って物事を考えるように意識していました。お客様の立場に立ち、何を求めているのかを会話をしながら探るようにしていました。

面接官A：なるほど。ではどんなことを学びましたか？

私：はい。前職では、考えて行動することを学びました。一人にいくつもの案件があり、その進め方やお客様の相談に対してどのようにアプローチしていくか考えて行動することで対応力も身に付きました。

面接官A：ありがとうございます。では最後に何か質問などはありますか？

私：はい。質問はありませんが、採用を頂いた際にはまた1から社会人として初心を忘れずに業務にあたりたいと思っています。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

面接官A：こちらこそお越しいただいてありがとうございました。では、荷物をもって退室してください。

私：はい。失礼いたします。

(2)面接を終えての印象

終始、はっきりと受け答えができており、よくできたかなと感じていました。犬の散歩の話や私生活がだらしないという話の時は笑いながら話し、面接官の方も笑いながら聞いてくれたので雰囲気良く面接ができました。しかし、面接官の一人の50代くらいの男性が、他の面接官が質問をしてこちらが話しているときに下を向いて寝ているんじゃないかと思うほどの態度で、少し怖かったのですが、他の面接官の目を見て受け答えをして気にしないようにしていました。

(3)他受験生の印象

基本的に面接の順番が最初で、集団面接もなかったのであまり他の受験生とは

会わなかったのですが、やはり皆さんも緊張している様子でした。

(4)受験生へのアドバイス

場所は駅前にありアクセスもいいので面接当日に行っても迷うことはありませんが、「東京工業大学に来るのは初めてですか？」という質問があり、「昨日下見に来させていただきました。」と言うと、いい印象だったので、行ってみてキャンパス内の雰囲気を感じておいたほうが良いと思います。基本的には穏やかな雰囲気で質問をしていただけるので緊張せず、受け答えをしていれば大丈夫です。「なぜ東工大なのか」ということを聞かれるので、魅力を調べたり、HPを見たりして、他の大学と違う点と見つけておいたほうが良いです。

横浜市役所

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年7月10日（月）

面接官（何名いたか等）：2名

面接時間：15分

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：広い会議室、2m

私：失礼いたします。

面接官：受験番号と名前をお願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくをお願いいたします。

面接官：着席してください。

面接官：緊張していますか。

私：はい、とても緊張しています。

面接官：昨夜はよく眠れましたか。

私：緊張していたのですが、しっかり睡眠はとってきました

面接官：（志望動機やボランティア、アルバイトが教育関連であることから）なぜ教育や教育格差に関心を持ったのですか。

私：自分自身が教育の現場で知識や人間性などを培って人格を形成してきたという実感があったので、未来を切り開く子どもたちにとって、教育は社会を生き抜くための重要な基盤になると考えているからです。

面接官：他に関わりたいことはありますか。

私：少子高齢化によって市内の人口が減少する一方で在住外国人の数は増加し11万人以上になっており、相互理解を深めて誰もが生活しやすいまちづくりが求められているので、留学生支援をして気づきを得た経験から、多文化共生をはじめとする国際事業にも携わり、誰もが暮らしやすい多文化共生の実現に挑戦したいです。

面接官：居場所づくり事業をするにあたり、なぜ横浜市でなければならないのですか？

私：私は、未来を切り開いていく子どもたちが健やかに成長するための第三の居場所づくりについて、横浜市でこそ実現できる、そして実現したいと思ったため横浜市を志望しました。その理由は大きく2つあります。

①私自身が地域ケアプラザで小中学生に向けた学習支援ボランティア活動をする中で、他の居場所活動の団体や関係機関とのネットワーク強化による連携が必要だと感じたのですが、身近な福祉拠点として中学校区ごとに地域ケアプラザを持つ横浜でこそ、そこをハブとして区内の各地域や区内、そして区同士での関係機関との連携を強めることで、地域ぐるみで包括的に子どもの成長を支えられると考えるからです。

②市民の方々のシビックプライドが高く、さらに市外から関係人口となる方々も集って協働する横浜でこそ、市内外の方々と協働して子どものための多様な居場所づくりが展開できると考えるからです。

面接官：管弦楽団の活動についてですが、なぜ弦責を務めようと思ったのですか。

私：理由は2つあります。1つ目は人前に立ち統率するのが苦手だった自分と向き合い成長するため。2つ目はそれまでの練習体制に改善の余地があると考えていたため。現状維持は衰退だと思ったので、行動を起こそうと思い立ちました。以上の理由から、やりたがる人がいない中、立候補して務めました。

面接官：新たな取組みをするにあたって反対意見はなかったですか、どう対応しましたか。

私：コロナ禍で短くなった活動時間の中でわざわざフィードバックの時間を割くのは無駄だという匿名での意見をいただいていた。そこで、貴重な時間を使ってでも行う意義や効果を全体に向けて伝え、理解してもらいました。具体的には、観客の心を動かす演奏をするためには一人ひとりが主体的に合奏に向き合い課題を考える必要があることや、全体で課題を共有し同じ方向性を向くことで組織として早いスピードで上達できることを伝えました。

面接官：塾講師アルバイトの活動について、年齢が下の先輩とどのように関わっていましたか。

私：年齢が上だからといって偉いということはまったくないと思っているので、常に学ばせていただく態度で年下の先輩の講師と関わっておりました。

面接官：保護者からのクレーム対応の経験はありますか。

私：塾講師のアルバイトをする中で、生徒の忘れ物について伝えるために塾長から保護者に電話をかけるように指示があり、実際にかけたところ内容を伝える間もなく「こんな夜遅くに電話をかけてくるのは非常識ではないか」

というお叱りの言葉を受けました。その際、私はまず親御さんの話を最後まで聞き、しっかりと家庭の事情を配慮できなかったことを謝罪しました。その上で、生徒が財布を忘れたことを説明し、紛失したか不安になっていないか心配で電話をかけたことを伝えたところ、最終的には納得していただくことができました。

面接官：併願状況について教えてください。

私：私は横浜市が第一志望なので公務員は専願で、面接対策のために民間企業5社を併願しておりました。金融業界をみており、銀行3社、保険2社です。

面接官：あなたを雇うメリットを1分以内で話してください。

私：私の2つの自分らしさを、横浜市の持続的な発展のために生かすことができます。

1つは、個別指導塾のアルバイトで培った「相手の目線に立ち、バックキャストिंगの思考で課題解決をする姿勢を持つこと」です。市民の方や活動団体と関わる中で相手のニーズを自分事としての確に掴み、バックキャストिंगの思考で現状の課題を脱却する1歩踏み込んだ取り組みが可能になると思います。

もう1つは、弦楽器責任者で培った「誰一人取り残さない姿勢で全体利益を追求する意欲があること」です。常に誰一人取り残さないという視点で、市民の方々から託していただいた税金を、どのように持続的な市の発展のために使うべきかを考えていけるとしております。

このような私の自分らしさをもって、市民の方々と共に横浜市の持続的な発展に尽力してまいりたいと思います。

(2)面接を終えての印象

とにかく緊張していましたが、緊張しなくて大丈夫ですよという面接官の方のお声がけがあったり、私の回答内容に対してすごいですね、などと温かく反応してくださったりしたので、私の素直な姿や言葉で表現することができたと思いました。また、あらかじめ伝えたいことを頭の中に整理していたので、受け答えもスムーズにできました。

最後の質問で、あなたを雇うメリットはどんなものか、というような想定していない質問がありましたが、落ち着いて自己PRも含めた回答ができ、面接官の表情も良かったので安心して面接を終えることができました。

(3) 模擬面接と比べて実際はどうだったか

アガルトの講師の方による模擬面接では、圧迫面接のような自分の回答について詰められる面接もしていただきましたが、実際の面接ではどちらも温かい雰囲気での面接で、いい意味でかしまらず、自分らしさを出すことができました。また、模擬面接では志望動機について深く掘り下げられることが多かったのですが、実際の面接では自分のこれまでの経験やそこから繋がる自分のアピールポイントについての深掘りが多く、人物重視の面接であるように感じました。

(4) 他受験生の印象

女性よりも男性が多いような印象を受けました。待合室では、面接カードや想定質問と答えをまとめたようなノートなどを見ている受験生や、緊張でため息をついたりする受験生がおり、張り詰めた空気にもなれそうになりました。市外出身者や国家職との併願の受験生も多くいるようでした。

(5) 受験生へのアドバイス

面接の服装指定は「季節に合わせた服装」でどんな格好か迷ってしまうかもしれませんが、夏場なので、ジャケットを着ない受験生もいましたし、シャツも半そでの方もちらほらとおり、文字通り季節に合わせた服装で構わないと思います。場所はわかりやすいですが、早めに到着している方が多くいました。面接の順番によっては1時間以上待合室で待つ場合もあるので、面接カードや自己PRなどを簡潔にまとめたノートを持参すると、その待ち時間を有効に使えると思います。

金沢市役所

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年7月26日

面接官（何名いたか等）：面接官6名、進行1名

面接時間：10：15～10：30（15分間）

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：バレーボールコート程の会議室というよりは集会室。面接官とは7、8mは離れていたと思います。

私：失礼します。

進行役：面接番号と受験番号をお願いいたします。

私：面接番号〇〇、受験番号〇〇〇〇です。本日はよろしく申し上げます。

進行役：着席してください。

面接官A：おはようございます。今日もかなり暑いですが、どのように会場まで来られましたか？

私：バスで近くまで来て、そこから歩いて来ました。

面接官A：そうですね。大学ではバスケットボールのサークル活動を行っていたのですが、コロナ禍の中で大変ではなかったですか？

私：そうですね。かなり活動は制限されてしまいました。体育館の人数制限が厳しく、一時活動が停止に追い込まれ、このままサークル自体が無くなってしまいう危険性もありました。それでも何とか存続させなければという思いで、5対5ではなく3対3にしたり、体育館を2つの時間でとって分散させたり工夫して続けていました。

面接官B：私からいいですか。コミュニケーションを取る際に心掛けていることはありますか？

私：相手の話をよく聞くことを意識しています。言いたいこと、伝えたいことを理解してから自分の意見を伝えることが重要だと思います。

面接官B：では、どうしても意見が食い違うときにはどういう風に対処しますか？

私：どちらかの意見をそのまま採用することは、どちらかの納得感がなくなってしまうのであまりしないようにしています。相手の意見と自分の意見を俯瞰して考え、目的に対してそれぞれの要素がどう働くのか、重要なのか

を考えて折衷案を出していくことが多いです。

面接官C：私からいいですか。最近のデジタル化の流れについてどう思いますか？

私：人々が快適に暮らしていく上でいまや必須になっていることだと思います。だからこそ市役所としてもいち早く対応し、市民のニーズにあった形で提供する必要があります。一方で高齢者の方々などデジタル化への対応が難しい人がいるのも事実です。そのような人々も置いていかないサービスの提供が重要だと思います。

面接官C：ありがとうございます。

面接官D：自分が学生の頃は市民に貢献することが公務員の務めだとよく言われましたが、「市民に貢献する」というのはどういうことだと思いますか？

私：(申し訳ないですが、ここの回答をよく覚えていません。暮らしやすいまちづくりに関しての回答をした記憶はあるのですが、細かいところはあまり覚えていません。具体的に話すことができず詰まってしまうと上手く答えられなかったと思います)

面接官E：では、暮らしやすいまちづくりとはどういったものでしょうか？市役所として何ができるのでしょうか？

私：人々の暮らしの満足度の種類は多様化し様々だと思います。それぞれの仕事や趣味によって満足感や暮らしやすさは変わってくると思います。そのうえで、生活を支えるインフラなど基礎的なサービスを整えることは当然重要だとして、困ったときに頼れる存在になることが市役所の重要な責務だと個人的には考えています。

面接官E：ありがとうございます。

面接官F：では、自己アピールをお願いします。採用されたら自分は金沢市役所にこういう貢献ができるというものはありますか？

私：自分は様々な場面で人の間に立ち、話し合いを前に進めていくことができます。先ほどのサークルの対応も、役員の中なかでしばらく休むべきだという意見と今までと同じように続けるべきという意見で分かれていました。全員が共通してサークルを続けたい気持ちがあったので自分が間に入り形にしました。いろいろな場面や人と話し合い進めることが大切だと思うので、そこで貢献できればと思います。

面接官F：ありがとうございました。

進行役：以上で面接は終了になります。お疲れ様でした。

私：ありがとうございました。

(2)面接を終えての印象

面接カードの内容を中心に質問が来るだろうと想定していたのですが、ほとんど触れられずに質問をされたので詰まって考えてしまい、あまり手ごたえはなかったです。いろいろなパターンを想定して模擬面接などを繰り返していけばいいと思います。大きくはっきりとした声で、面接官としっかりコミュニケーションを取る意識で話せていたので、そこがいい評価につながったのではと思います。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

アガルートの模擬面接は利用せずに、大学の面接練習を2、3度行いました。そこでは具体的な質問が多かったのですが、実際は割と抽象的な質問が多かったです。また、一つの質問に対し、深掘りをしていくと思っていましたが、あまりそのようなことはなく淡々と次の質問に進んでいく感じでした。直前の待機室で面接の注意点の説明があったのですが、そこで時間が押していることと質問に対し一言で答えるようにと強調されたので、時間が短めだったんじゃないかなと思います。面接時間のなかで様々な質問に答える力が求められていたと思います。

(4)他受験生の印象

4人ごとに区切られて待機場所に集合する形でした。なので、そこでの3人しか見ていないのですが、全員が男性でスーツにネクタイでした。そのうち2人が面接対策をまとめたものと思われる小さいノートを見ていました。全体的にあまり緊張している様子はなかったと思います。

(5)受験生へのアドバイス

庁舎が2つあるのでそこを間違わなければ、案内も出ていたので会場まで迷うことはないと思います。バスで行くとすると、少し歩くことになるのでハンカチと水分はしっかり用意していくといいと思います。自分は早く着いてしまいロビーで待機していたのですが、空調が効いた集合場所は時間に限らず空いていたので早めに入って大丈夫だと思います。

堺市役所

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年8月5日

面接官（何名いたか等）：ベテラン職員2名、中堅職員1名

面接時間：約30分間

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：高校の教室1部屋に面接官3人と受験者1人の形で行われた。

私：失礼します。受験番号〇〇、〇〇〇〇と申します。よろしく申し上げます。

面接官A：ご着席ください。

私：失礼します。

面接官A：志望動機を教えてください。

私：私は堺市職員である先輩方の姿に心を動かされ、志望いたしました。私が進路に悩んでいた際に、私の状況や心情をくみ取りながら何度も相談に乗って下さいました。私も先輩方のように誰かのために行動がとれる職員になりたい、そしてわが街堺市をより良くしていきたいという考えを獲得し、志望しました。

面接官A：堺市でどんな仕事をしていきたいですか。

私：私は堺市の豊富なスポーツ資源を用いて地域活性化をしていきたいと考えています。堺市には複数のトップチームが拠点を置いていて、全校区でも有数のスポーツ施設があります。これらのチームと連携を深めて様々なイベントを催し、スポーツ施設へトップチームを誘致することで堺市がスポーツから盛り上がるような事業に携わりたいです。

面接官A：ありがとうございます。あなたの強みを教えてください。

私：私の強みは積極的に行動を取り、周囲にも好影響を与えていくという点です。

面接官A：その強みは公務員になっても活かされますか。

私：はい。時代の流れに合わせて、新しいことへも積極的に挑戦し続け、より過ごしやすい街の実現に向けて尽力していきます。

面接官A：ありがとうございます。

面接官B：エントリーシートに弱みはせっかちだと書かれていますが、弱みと向き合うために工夫をしていることなどありますか。

私：せっかちを直していくためにも、一度立ち止まって周囲の進捗状況などを確認しながら、自分の選択をしていることです。周囲のスピードよりも自分が早くなってしまっている際には、しっかり状況を確認しながら焦らずに行動を取っています。

面接官B：部活動で主将をされていたということですが、大変だったことはありませんでしたか。

私：部員間で熱意の差が現れたときです。

面接官B：どんな対応をしましたか。

私：熱意の差が現れた原因を明らかにし、部員が不満を持たないような新たなシステムの提案・導入を行いました。結果的にチームの雰囲気も以前より良くなり、成績向上にも繋がりました。

面接官B：ありがとうございます。キャプテンや組織の代表として必要なものは何だとお考えですか。

私：組織の代表として大切なことは、模範的な人間になるということです。普段の生活の中の一つひとつの言動から責任を持って行動をしていくことで信頼関係を築き、チームや組織のメンバーに真似をされるような人間になることだと考えます。

面接官B：ありがとうございます。

面接官C：これまでクレーム対応をしたことがあるのか。またあるならばどのような状況で、どのような行動を取ったのかを明確に教えてください。

私：(この後、一つひとつの行動に対してなぜそうしたのかななどを聞かれましたが、アルバイト上の守秘義務があるため、今回のこのレポートには記載できません。ご理解のほどよろしく申し上げます)

面接官C：あなたは準備というものを大切にしているが、100人を超える部員全員に準備を徹底させることは難しかったんじゃないの？

私：もちろん部員全員に私の考えを押し付けていたわけではありません。私が生きていくうえで、準備を徹底して行うことで心に余裕が生まれたり、学業や部活動で結果を残すことができました。これまで何度か準備をする際に意識していることや大切にしていることを聞かれたことがありました。その際には一つひとつ丁寧に、私の考えを共有しました。

面接官C：さっき部員同士の熱意の差が出て大変だったと言ってたけど、さっき話していたこと以外にも何かしなかったの？

私：〇〇が好きだという気持ちを改めてミーティングで共有しました。〇〇部に入ると決めたときの初心を思い出し、どういうところが魅力的なのや達

成感を得る瞬間など、〇〇に関する他愛もない会話をする環境を創りました。

面接官C：さっきも聞いていたけど、あえて改めて聞きます。あなたがキャプテンや組織の代表として必要だと考えているものは何ですか。

私：模範的な態度や姿勢です。

面接官A：堺市の志望度を教えてください。

私：第一志望です。

面接官A：これで面接は以上となります。本日はありがとうございました。

私：ありがとうございました。失礼します。

(2)面接を終えての印象

面接を終えて、想定していたような面接官ではなかったが、準備をしっかり行っていたので対応することができた。私が受験した堺市は完全に人間性を重視しているとわかるような面接でした。堺市に対しての熱意というよりも、堺市職員として働いていくことができる人材かを判断しているようでした。

そのため自分の考えを伝えるときは、自分自身の経験やエピソードをもとに根拠ある発言を心掛けていかなければならないと強く感じました。少しでも面接官が疑問に思った点は、何度も、いろいろな角度から質問攻めをされました。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

模擬面接はあくまで面接の雰囲気を感じ取るためだけのものだと感じた。つまり面接官が違えば、聞きたい質問も変わり、面接の雰囲気も変わってきます。

しかし、模擬面接はとても重要です。模擬面接を1度でも受けた人と1度も行わなかった人では大きな差が現れると思います。質問や雰囲気が違えど、模擬面接で面接の流れを体験しておくことで、本番にその場の流れで様々な状況にも対応できるようになると思います。

何度も何度も模擬面接を行うことはそれほど重要度は高くないと思いました。最低1回は模擬面接をして面接本番でも対応できる力を身に付けると良いと思います。

(4)他受験生の印象

控室や廊下で他の受験生を見たが、ある程度受かりそうな人と落ちそうな人が分かるような気がした。もちろん他の受験生の面接本番を見たわけではないが、控室でのたたずまいや歩き方、姿勢、スーツの着こなしなどで雰囲気伝わりました。控室などでさえ背筋が丸かったりうつむいているような人は、面接本番でも自分の気づかないうちに面接官からみてマイナスな評価を受けることをしてしまうだろうと感じた。

会場の控室や普段の生活から自分に自信をもって行動していくことで、面接での振る舞いにも良い影響を与えていくと思いました。

(5)受験生へのアドバイス

面接に関しては準備に比例して理想の面接に近づけられると考えています。想定質問などをある程度考えながら、自分の考えを明確にしておき、説得力のある回答ができるよう頑張ってください。

また面接の雰囲気に慣れるためにも早期卒の試験を受験することをお勧めします。自分が全く知らない自治体などでも効果的だと思います。模擬面接とは違った本物の面接の雰囲気を味わうことで、その後の本命の面接につながられます。あきらめずに自分のやってきたことを信じて最後まで突き進んでください。

SAMPLE

©AGAROOT Inc.

無断複製・転載を禁ず。